

私たちは、塗料事業で培った技術と人財を
最大限に生かした製品・サービスを通じて、
人と社会の発展を支えます。

世界をフィールドに挑戦を続ける



www.kansai.co.jp



EnaLloid

ENNA

Craftsmanship makes a *"difference"*

Ena Optical Mfg. Co., Ltd.
恵那眼鏡工業株式会社

〒508-0101 岐阜県中津川市苗木 4827-48

TEL : (0573)-67-2211 (代)

FAX : (0573)-67-2214

E-mail : info@ena-gf.jp



会報「咲耶」
2023 No. 34



【表紙のことは】

新キャンパスの見どころは、やはり「言葉を究めて世界へはばたく」という外国語学部の理念を具現化する施設・設備であろう。その象徴として、5階の「同時通訳実習室」を覗いてみる。教室後方に3つのブースがあり、同時通訳の実践的な練習ができるようになっている。隔離された空間の中で、「言語」と真摯に向き合う学生の緊張感が伝わってくる。

5階と6階の学生交流スペースをつなぐ階段を「光と平和の広場」と呼ぶ。木目調のフローリングと壁に光が射し込み、やわらかく居心地のよい空間を創り出している。学生が自由に語らう場として、またプレゼンテーションスペースとしても活用。写真は、並川先生担当の「異文化理解」の受講生。屈託のない、伸びやかなクラスの雰囲気心がなごむ。

5階の「学生交流スペース」は、主にグループでの活動・研究のためのスペース。情報の収集・発信ができ、学生同士のコミュニケーションの場、友情を育む「憩いの場」でもある。

目次

2-3 ご挨拶
2-3 咲耶会会長 大内 一
大阪大学理事・副学長 山本ベバリー・アン
外国語学部長 竹村景子
4 大阪大学中之島センター改修お披露目会
令和5年度 総会・懇親会のご案内
5 異文化・異言語の殿堂―箕面新キャンパス誌上ツアー
6 [特集] 司馬遼太郎生誕100周年記念 [特別寄稿]
7-8 令和4年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会
心に残る恩師の思い出 生田美智子/村山久二子
9-10 [特集] 留学体験記 松本 涼/三村紗也香
11-12 私のキャリアレポート 尾崎 拡/中谷陽子
13-14 菜の花 古川タク
15 CAMPUS NEWS
16-19 部活動の広場
20 咲耶会ニュース
21-24 令和4年度 決算報告/令和5年度 予算案
25-26 つどい
27-29 支部だより
30-33 短信
33 物故者 追悼文
34-36 年会費支払者・賛助金寄付者一覧
37 咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表
38 令和5年度 咲耶会役員名簿
個人情報の取扱いについて 編集後記

ご挨拶



咲耶会会長

大内 一

咲耶会の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素よりの皆様のご支援とご協力に対し深く感謝申し上げます。令和4年11月に開催された総会におきまして、大水前会長の後を受けて会長職を務めることになりました大28期イスペイン語学科卒の大内一です。学生および教員として上八、粟生間谷、箕面船場の3キャンパスを知る数少ない卒業生の一人です。創立100年を越える伝統ある大阪外国語大学・大阪大学外国語学部の同窓会組織「咲耶会」の代表という重責を担うことになり、学部長時代とは異なる緊張感で身の引き締まる思いです。咲耶会のホームページにて同様のご挨拶をすでにさせて頂いておりますが、会報『咲耶』でのご挨拶は初めてかと思っておりますので、あらためまして今後とも

ご支援・ご協力のほど、宜しく願い申し上げます。

咲耶会は、言うまでもなく「会員相互の親睦を図ること」と「母校・外国語学部の発展を支援すること」をミッションとしています。創立100周年記念に際し、新キャンパス講義棟1階の「大阪外国語大学記念ホール」設置のために多額の寄付を行った関係上、当面は「会員相互の親睦を図る」ための活動に注力したいと考えています。幹事の方々の発案による「ワインを楽しむ会」を皮切りに、様々な規模の多様な同窓会活動を企画し、実施して行くつもりですので、具体的な企画のご提案や各支部・地域で行われる活動がございましたら、是非とも本部事務局にお知らせ下さいませようお願い申し上げます。ホームページや会報『咲耶』をとおして情報共有を進め、会員の皆様が世代や語科・専攻語の違いを越えてしっかりと繋がることのできる場を提供したいと考えています。

咲耶会の活動に対する皆様のご理解と積極的なご参加・ご協力をお願い申し上げます。以上、簡単ではございますが巻頭のご挨拶とさせていただきます。

咲耶会の皆様、こんにちは。



大阪大学理事・副学長 山本ベバリー・アン

2023年4月から国際(教育)担当の理事・副学長に就任しました山本ベバリー・アンです。イギリス人で英語で名前を書くとBeverly Anne Yamamotoになります。日本に来て約37年になり、イギリスよりも日本の暮らしの方が長くなりました。しかし今でも、新しい漢字を覚えたり、日本の文化・社会について新たな気づきが得られることも多く、私にとって大きな喜びです。咲耶会の皆様のルーツは大阪外国語大学や大阪大学外国語学部ですので、この気持ちを共感していただけるものと思います。

勉強している姿をいつも見えています。他の言語の取得と接触は楽しいですね。私のゼミでは、学生たちは社会学、教育学、保険学などの分野の専門性を持ちつつ、日本社会を研究対象にしています。取り上げている研究課題は、日本の大学の国際化、学校における外国ルーツを持つ子供の教育環境、日本の学校教師のジェンダー意識、性(生)に関する教育、包括的な性教育と教員養成、日本における特別活動と食育などが代表的です。多様性が豊かなゼミで活動する学生たちは、日本社会の在り方に非常に興味を持っています。自分の文化のことを研究するよりも自分にとって当然ではない社会・文化の現象を研究することにより「目が覚める」し、新しい発見ももたらすでしょう。

理事・副学長になる前は、人間科学部・研究科で17年間、教育と研究活動を行っていました。自分自身の生活が国際的ですので、教育と研究活動にもその精神を反映しています。私が指導している学部生・大学院生は、国際的な日本人をはじめ、欧米、南米、中東、東アジア、東南アジア、オセアニアから来た留学生です。様々な言語と文化を持っている人同士が楽しく交流しながら

国際(教育)担当理事・副学長として、異なる文化との接触や他の言語を覚えるプロセスの刺激と楽しさを、誰もが一般的な経験となるよう取り組んでいきたいと思っています。そのために、海外留学の経験、カリキュラムのコンテンツの国際化、留学生と日本人学生の関わりあう機会などを促進したいと思います。咲耶会からのご支援とアドバイスを歓迎いたします。

よろしく願いいたします。

学士会をご存じですか？

学士会は旧七帝大(北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大)の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 1 『學士會会報』が届きます。
2 講演会・イベントへ参加できます。
3 「学士会館」会員優待があります。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。 https://www.gakushikai.or.jp/

学士会案内が届く準会員(無料登録)制度もございます。

一般社団法人 学士会

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28 03-3292-5933 (平日9時~17時)



北大阪急行線の延伸を見据えて



外国語学部長
竹村景子

咲耶会の皆さま、いつも外国語学部へのご支援・ご協力を賜り、本当にありがとうございます。

昨年はキャンパス移転後の初めての夏まつり開催、対面型オープンキャンパスの復活、語劇祭の研究講義棟での開催等、少しずつ「日常」が戻ってまいりました。咲耶会事務局の皆さまにも様々な面でご協力をいただいております。

この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、すでにお聞き及びの方もいらっしゃると思いますが、今年度末にはいよいよ北大阪急行線の延伸が完了する予定です。その開業記念式典は、2024年3月23日、24日に開催されることになっております。ようやく、本当に「駅前キャンパス」となる日が近づいてまいりました。

そもそも、移転と同時に「箕面船場阪大前駅」が開業していれば、また、コロナ禍がなければ、船場キャンパスはOUグローバルキャンパスとして「もっと地域に開かれたキャンパス」となるはずでした。間谷キャンパスで行っていた夏まつり、語劇祭、マンスリー多文化サロン等に加えて、さらに地域のステークホルダーの方々を巻き込んだ企画を行うという使命があったのです。3年間のブランクを経て、満を持して新たなイベントを2つ、今年から開催することといたしました。

1つは「さまざまな視点で世界を見る」というシリーズです。第1回目の今年7月22日にすでに開催いたしました。「トルコ・シリア北部地震チャリティ講演会」と題して、4名の方にお話しいただきました。

また、講演会後は「トルコ料理と箕面ビールを楽しむ会」を開催し、講演会と合わせて非常に盛況でした。箕面市国際交流協会(MAFGA)の皆さま、箕面ビール(株)の皆さまに多大なご協力をいただいたおかげです。このように、本シリーズは世界のある国、地域を取り上げ、講演や映画鑑賞を行った後、その国や地域にちなんだお料理と箕面ビールを楽しむイベントにいたします。来年の第2回目についてのアナウンスも、楽しみにお待ちしております。

もう1つは、「外国語学部・外国学専攻シンポジウム」です。第1回目は10月21日に「言葉を究めて世界へはばたくー外国語を学ぶ者へのメッセージ、外国語を学ぶ者からのメッセージ」と題して、箕面市立文化芸術劇場の大ホールで開催いたします。基調講演者は元京都大学総長の山極壽一先生、元京都精華大学学長のウスビ・サコ先生です。本シンポジウムは、4月1日に起ち上げました「大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター(阪大ふくふくセンター)」のキックオフシンポジウムともなっておりますので、第1部の基調講演の後、第2部では阪大ふくふくセンターの活動についての報告とパネルディスカッションを行います。シンポジウム後は、「箕面船場オクトーバーフェスト」と題して、箕面ビール(株)やMAFGAの皆さまをはじめ、地域の多くの方々にご協力いただき、楽しい秋祭りを開催する予定です。

どちらのイベントも「箕面といえば」と思っていただけのように、第2回、第3回と続けていく所存ですので、皆さまのお心に留めていただければ幸いです。

最後になりましたが、外国語学部生たちのために、今後も咲耶会の皆さまからの温かいご支援とご協力を賜りたく、心からお願い申し上げます。



「大阪大学中之島センター改修お披露目会」が挙行されました

大阪大学中之島センターは、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業として機能強化を目的とした改修を行い、4月1日、リニューアルオープンしました。

4月30日(日)、大阪大学中之島センター改修お披露目会が、約170名列席のもと挙行されました。大阪外国語大学関係では、赤木・是永両元学長が出席。卒業生でフリーアナウンサーの小川真由さん(日本語大56)の司会で進行。式辞として、西尾章治郎総長から、文化・芸術・学術・技術という「四つの知」が交差する発信拠点の形成を目指すために大規模改修

を行ったこと、この目的に賛同し、温かい支援と協力をいただいた列席者ならびに大阪大学を支えてくださっている全ての方々へ、感謝の言葉が述べられました。

公益財団法人稲盛財団理事長 金澤しのぶ氏、サントリーホールディングス株式会社代表取締役副会長 島井信吾氏、大阪大学元総長・大阪大学同窓会連合会会長 岸本忠三氏による祝辞の後、中之島センター長の金田安史理事・副学長からセンター改修の概要を説明。最後に、大阪大学総長・元総長等によるテープカットが華やかに行われ、閉会しました。

令和5年度総会・懇親会のご案内

日時: 令和5年11月11日(土) 午後1時30分~午後6時
会場: 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟1F
大阪外国語大学記念ホール・大講義室
大阪府箕面市船場東3-5-10
TEL 072-728-2327 (咲耶会事務局直通)

<第I部>

- 咲耶会総会: 午後1時30分~午後2時30分
- 「咲耶出版大賞」表彰式: 午後2時30分~午後3時
- 講演会: 午後3時~午後4時
講師: 春名幹男氏(大D17/ドイツ語学科 1969年卒業) 国際ジャーナリスト
第6回「咲耶出版大賞」大賞受賞(2021年度)「ロッキード疑獄 角栄ヲ葬リ巨悪ヲ逃ス」(角川書店)
演題: 「日米関係を「和」の思想で見直す」
- 休憩: 午後4時~午後4時20分



<第II部>

- 懇親会: 午後4時20分~午後6時
懇親会会費: 5,000円(当日会場にていただきます)
 - ※ 新卒業生会員(令和5年3月/令和5年9月卒業)・学生会員は無料です。未加入の学生については、会費として、1,000円をいただきます。
 - ※ 卒業後50年の会員には、記念品をプレゼントします。多数のご出席をお待ちしています。
 - 参加ご希望の方は、同封のハガキにてお申し込みください。
- <お問い合わせ>
咲耶会事務局 TEL&FAX: 072-728-2327
E-mail: sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

5軸加工工作機械用セルフセンタリングバイス・ゼロ・ポイント・システム
切削加工用永電磁チャック、自動搬送用ロボットアームマグネットチャック
タービンローター加工用クリスマスカッター、パイテープ、海上風力発電用 UHMWPE ラウンドスリング

FIRSTEC 株式会社ファーステック
代表取締役 中井 康人 (II F-19)

台湾製・アメリカ製・ヨーロッパ製
機械工具輸入・国内販売

〒578-0911 大阪府東大阪市中新開1-15-11
TEL 072-960-3340 FAX 072-960-3399
https://www.firstec.co.jp

「司馬遼太郎と帝塚山派の人々」

元産経新聞編集委員 「咲耶出版大賞」選考委員長 石野伸子 (大D22)

東大阪市にある司馬遼太郎記念館に、作家の色紙を貼り交ぜ屏風にした大きな衝立がある。色紙は全部で15枚あり、司馬遼太郎本人のもののほか、今東光、黒岩重吾、山崎豊子、安西冬衛、藤澤桓夫、小野十三郎、長沖一の7人の名前がある。

この衝立を見に行ったのにはワケがある。8年前、大阪に「帝塚山派文学学会」ができた。帝塚山は大阪の高級住宅地として大正時代に売り出され、多くの作家や学者が住み、戦後のある時期まで独自の文化圏を形成した。中核を担ったのは、長く帝塚山に住んだ東洋史学者・石浜純太郎、彼の甥で作家の藤澤桓夫。帝塚山学院からは2人の芥川賞作家(庄野潤三と阪田寛夫)も出ている。彼らの作品には、よく言われる大阪のド根性もとは違う「含羞」とでもいい作風があり、それをひとつの大阪文化として再認識しようという動きだ。

縁あってこの学会に参加している。そこでいろいろ話を聞いているうち、彼らと司馬遼太郎との関係はどうだったのだろうと気になり始めた。司馬が彼らと付き合い始めたのは昭和28年から退社する36年まで、産経新聞記者として文化部に在籍していた時期だ。当時司馬が担当した学芸面を調べると、実に多くの帝塚山派の人々が登場してくる。

そんな折、司馬遼太郎記念館に帝塚山派の作家の貼り交ぜ屏風があると聞き、見せてもらいに行ったのだ。実際には、それは帝塚山派というより、在阪作家による屏風というのが正しい。何しろ7人のうち、帝塚山派といえるのは藤澤桓夫、長沖一、小野十三郎の3人だけ。しかし、私にはある種の感慨があった。

この貼り交ぜ屏風は昭和40年ごろに作られた。司馬42歳。藤澤桓夫61歳。大阪がまだ元気だったころだ。色紙が飾られるまでにはちょっとした経緯がある。司馬は当時関心を深めていた秀吉ゆかりということで、六曲一双の「洛中洛外屏風」を手に入れた。衝立はそれを飾るために特注したものだ。しかし、屏風を引き取ってみると、秀吉の時代にはなかったはずの島原が描かれていて、すっかり興ざめして屏風を手離した。が問題は衝立。桑の直木から切り出した貴重なものであるということから、大阪の銘木組合に引き取ってもらうことにした。でも空っぽの衝立ではいかにも格好がつかない。そこで当時交友のあった作家仲間に声をかけ、貼り交ぜ屏風にして組合に寄贈。時を経て、司馬遼太郎記念館ができたということで里帰りしたものだ。

私の感慨というのは、帝塚山派はやはり大阪の文化の中核を担っていたのだなあ、という確認。次に司馬と彼らとの深いつながり、そして運命の交差。

まだ何者でもなかった新聞記者は、やがて作家活動を本格化し、「梟の城」で直木賞をとり、人気作家への階段をかけたのぼっていく。一方の帝塚山派はかつての勢いを失い、大阪でも忘れられた存在になっていく。両者の関係を自分なりに調べ、「司馬遼太郎と帝塚山派の人々」として発表した(帝塚山派文学学会紀要第7号)。

お互いを綴った文章を読むと、大作家となってからは語られない司馬の一面を見る思いがする。ときにフレームアップも辞さないフィクション派の司馬を、一抹の不安をもって見守る先輩作家・藤澤桓夫。エリート出身の同期の桜・石浜恒夫との微妙なライバル意識。そして、仲間に支えられた長沖一。長沖の没後、司馬は彼の未発表作「肉体交響楽」を世に問う一助を担い、長文解説「昭和5年からの手紙 長沖一とその世代環境」を書く。帝塚山派の人々を「のどかな詩社」と語り、「遠くからながめるといい景色」と綴った。

遠くから、という言葉に国民的作家の枯淡を見る思いがする。時代を経て見ると、それもまた、いい景色に思える。



「色紙の衝立」(写真提供・司馬遼太郎記念財団)



6階 学生交流スペース



10階 もみじラウンジ



4階 SALC : Self-Access Learning Commons



3階 食堂(東側小あがりスペース)



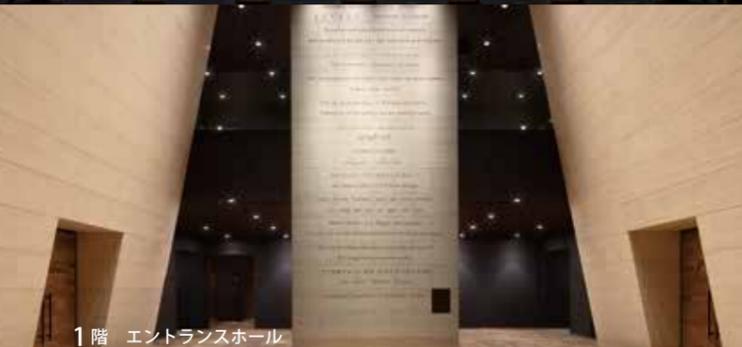
1階 大阪外国語大学記念ホール



3階 食堂「レインボー」



1階 大講義室



1階 エントランスホール



1階 ホワイエ



世界時計と3階につながる大階段

異文化・異言語の殿堂—箕面新キャンパス誌上ツアー—

令和4年度 大阪大学 司馬遼太郎記念学術講演会

主催：大阪大学
協力：産経新聞社
後援：司馬遼太郎記念財団
協賛：咲耶会（大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会）

テーマ：「歴史・時代小説の可能性」

短編映像コンテスト「阪大生、街道をゆく」

講演 「歴史・時代小説の可能性」

作家 今村翔吾

総合司会：小川真由（アナウンサー、大阪外国語大学国際文化学科日本語専攻卒業）

令和4年12月10日、大阪大学箕面キャンパス1階大講義室において令和4年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会が開催された。コロナ禍後ようやく対面での授業が復活し、移転したキャンパスにも学生の声や響くようになった時期、大阪大学の主催、司馬遼太郎記念財団の後援や若き司馬遼太郎先生が勤務していた産経新聞社の協力、そして咲耶会の協賛によって開催の運びとなった。司馬遼太郎記念財団からは、上村洋行理事長ご夫妻のご臨席もあった。



大阪大学総長 西尾章治郎

最初に主催者である西尾章治郎大阪大学総長からの挨拶があり、本講演会の意義と、学生参加の新たなコンテストについての紹介、そして講演者の今村翔吾先生の紹介があった。

その後、阪大生による短編映像コンテスト「阪大生、街道をゆく」が催された。これまでは、阪大生がお気に入りの司馬作品の良さを述べて競うビブリオバトルが行われていたが、今回は、司馬遼太郎先生の名シリーズ「街道をゆく」さながらに、阪大生が自身の思う道に関するビデオを作成し、道の由来やその面白さを述べて競いあうという「いまどき」らしいコーナーとなった。

応募作品の一人目は外国語学部1年生の杉瀬武蔵さんの作品「金澤開道」で、故郷の金沢にある古道に沿うように築かれた江戸期の貯水池を紹介した。二人目の人間科学部4年生の飯沼茜梨さんは「旅路」という題の作品で、道を抜いながらも心性を描き出す素晴らしい作品を紹介した。三人目の基礎工学部3年生の三浦太陽さんは「道」にかけて「未知をゆく」と題し、箕面の滝に至る細い道を紹介して、地道の面白さを、見事な映像技術を駆使した秀作として発表した。医学系研究科博士前期課程2年生の金澤弓美子さんは「道程」という作品で、プロ顔負けの自作のアニメーションで、生命機能について学ぼうとする自らが進むべき道を描き出した。金澤さんは、幼いころから親しんできた司馬作品の紀行文が、旅先で出会



った人や文物を通して、さらに道が広がるさまが描かれている点を指摘した。

最後に出品した外国語学部2年生の高橋宏夫さんと材井龍翔さんは「今も道は、そして道は」と題して、紀州街道につながる堺筋や、子供時代の司馬遼太郎先生が通っていた図書館跡の公園を経て、現在の箕面キャンパスへとつながる足跡をたどった。学生の作品を通してあらわされる「道」は、特定の道よりも「人生の道」に対する思いを強くしていた感があった。観客による投票の結果、優勝は三浦さん、準優勝は金澤さんで、総長の講評があった。



その後、学術記念講演会が開催された。今年度は、人気歴史小説家今村翔吾先生であった。今村先生は1984年京都のお生まれで、ダンスインストラクターや守山市埋蔵文化財調査員などの経験を経て作家デビューされた。『童の神』では角川春樹小説賞、本屋が選ぶ時代小説大賞、山田風太郎賞など、多くの賞を得たほか、『塞王の楯』では第166回直木賞を受賞、さらに吉川英治文庫賞作品となった『羽州ぼろ鷲組』や『くらまし屋稼業』『イクサガミ』などのシリーズも人気を博しているほか、テレビでコメンテーターとしても活躍中である。

2021年には、箕面市にある書店を事業継承して経営し、月に一度くらいは必ず箕面市に来られるという多彩な小説家である。

ご講演「歴史・時代小説の可能性」では、歴史小説と時代小説は、現在の出版業界では全く異なるものと認識されており、歴史小説は大河ドラマ、時代小説は水戸黄門に代表され、歴史小説は史実に沿うもので解釈が異なるなどの差異はありながら

も歴史上の出来事を扱うのに対し、歴史的背景にありながらフィクション性を帯びたものが時代小説だと説明された。

学生時代から幾度も読んだという背表紙が擦り切れた『燃えよ剣』をお持ちになり、土方歳三に寄り添う前半に対し、後半は俯瞰的に土方歳三を描いていることから、前半で主人公への関心を抱いた読者が、その後の主人公を探そうとする。この手法を自作の『童の神』の中で活かしていると述べた。中学生時代に『梟の城』を何度も読み、自分が用いない表現に付箋をつけて語彙を増やし、自作でも難訓の漢字を用いたという。そのことでフィクションをより歴史的事実に近づけるような効果を持っているのではないかと持論を述べた。

歴史小説、時代小説の人気理由は、演歌と同じで、若いうちには理解できなくても、年を重ねるとそのよさがわかるという良さがあるという。ただし、若者が共感できるエンタテインメント性を加味する自由な書き方が間口の広さを与えることができる歴史小説の手法についても述べられた。自作の『くらまし屋稼業』のなかで異なる剣術を次々に身につけていく登場人物を描くとき、それを新しい人物像と捉える年配者に対し、若者は「それも有り」と受け容れるなど、解釈が異なりながらも世代を超えて小説の世界に入っていくことができるという。昨今の出版業界では「ラノベ（ライトノベル）」から歴史・時代小説の世界に出版人が移動する傾向もあるなど、興味深いお話を、司馬作品を交えつつ紹介された。



歴史小説を書くにあたっては、まず「舞台装置」を決め、この時代で最も生き生きと描ける人物を選ぶという。東大寺に火をつけた松永久秀や、『八本目の槍』に描いた石田三成らのように、

真相がねじまげられた人物を描きなおすことで読者に意外さを感じさせることもあるという。直木賞受賞作となった『塞王の楯』の着想は、昨今の戦争や紛争において、武器職人が他人を傷つけていることで自身の罪を意識して抑鬱状態になる傾向が高いという記事を読んだとき、人間の業、葛藤をいかに描けるか、と考え、楯と矛をつくる職人を主人公に描き、過去の人々が過ちや苦しみをいかに乗り越えたかを考えたという。

歴史小説は過去から学ぶだけでなく、答えは見つからないが、未来へとつなぐ意義を持っている、考え続ける作業を提供できる仕事だと語られた。司馬遼太郎先生は歴史作家にとって大きな壁となる存在であり、司馬遼太郎に挑もう、司馬先生が歩いた道をいま一度辿ってみようかと決意を表明された。これからのご活躍がますます楽しみとなる、軽妙ながら歴史小説論を披歴された素晴らしいご講演であった。最後に、大内一咲耶会会長からの挨拶があり、好評のうちに閉会となった。

なお、講演会終了後は今村先生によるサイン会が開催され、多くのファンが先生と語らう機会を持つことができました。次年度はいよいよ司馬遼太郎先生生誕100周年となる。新たな100年に向けて動き出した大阪大学外国語学部同様、この講演会もさらに飛躍するものと感じた。

（文責：山根 聡）（写真提供：大阪大学共創推進部社会連携課）

「令和5年度司馬遼太郎記念学術講演会」のお知らせ

10月14日（土）13:00～16:00、大阪大学箕面キャンパス1階大講義室にて、登録制による対面方式で開催いたします。

テーマ：過去と未来をつなぐ歴史小説の力
—司馬遼太郎生誕100周年に振り返る—

●学生企画：短編映像コンテスト「阪大生、街道をゆく」

●講演会企画：
講師：佐藤賢一先生（歴史作家）
1999年、『王妃の離婚』で第121回直木賞を受賞
2020年、『ナポレオン』全三巻で司馬遼太郎賞を受賞

●対談企画：
出演者：佐藤賢一先生
宮下遼先生（大阪大学人文学研究科准教授）
間き手：古谷大輔先生（大阪大学人文学研究科教授）

※詳細は、大阪大学または咲耶会のホームページをご覧ください。

ネフスキー先生と大阪外国語学校

新設された大阪外国語学校(現大阪大学外国語学部)にネフスキーが赴任してきたのは1922年のことであった。

学生に交じって35歳の選科委託生石濱純太郎が授業を受けていた。二人は親友になり、石濱は後に関西大学教授になるが、ネフスキーと過ごした外大に42000冊におよぶ石濱文庫を寄贈した。

大阪時代にネフスキーの才能は全面的に開花する。教師としてのネフスキーは教室中をエネルギーに歩きまわり、学生の発音を矯正する厳しい先生だった。最初の授業の時に流暢な日本語でロシア語の概説をやっただけで、次の時間から日本語は一言も話さない。黒板いっぱい音標記号で文章を書き、それを各自に読ませ、問答するという授業だった。語劇も熱心に指導し、ネイティヴとの交流の機会も作った。例えば、ソ連のウラジオストクにある極東大学東洋学部の学生が来日した折には学生との交流会を組織した。

教育に熱心で外国語教授連盟を作り、外国語をいかに教えるかという研究会を作り、教授法を研究した。休日には学生を家に招待し、サモワールから紅茶を入れ、ふるまい、ロシアの民話を披露した。語劇を熱心に指導し、学生に親しく接した。学生は「ネヴヤン」と呼んで彼を慕った。

学者のネフスキーは夏休みには沖縄宮古島に行き、民話を収集した。学生は外事警察の監視の目をかいくぐりフィールドワークをするネフスキーを尊敬した。

教え子の長谷川駿は満洲映画協会の文芸理事になり「満洲日日新聞」に掲載されたバイコフの「偉大なる王」の翻訳で全満洲に知られる存在になった。岩崎兵一郎と高橋輝正は外大教授になった。伊吹山次郎はロシア文学の翻訳に従事、平野曠はブルガリア語の教材を作った。

1928年、内縁のイソとの間に娘のエレーナが誕生し、翌年に二人は神戸の領事館で入籍し、ネフスキーは単身帰国する。その理由は、第一に外国人教師の地位が不安定で、正式な地位を得たいから、第二に母国が共産主義国となり、外事警察の尾行が執拗になってきたので、第三に娘がソ連国籍を得るための条件としてレニングラード大学への就職を強要されたため、第四にレニングラードの東洋学研究所が保有する世界最大の西夏語コレクションを研究するためであった。

単身帰国した彼は、レニングラード大学、レニングラード東洋学院、ソ連科学アカデミー東洋学研究所、エルミタージュ博物館で勤務するが、負担が多すぎ、東洋学院での仕事を断わる。1933年、妻子を呼び寄せる。フィールドワークに行けなくなった彼は日本から持ち帰った資料を出版し、活躍していたが、1937年日本のスパイの疑いで逮捕され、妻と共に銃殺される。

1957年、名誉回復され、彼の学問的遺産が次々と出版され、その後も日露で彼の遺産が公刊されつづけている世界的に著名な学者である。

生田美智子

大阪大学名誉教授(大R17/院R4)



不思議な雰囲気 of David Kidd 先生

村山久二子

(大E15)

学生時代が半世紀以上昔になった今、授業で教わった詳細は殆ど思い出せない。ただ、それぞれの先生方の印象は強く残っている。特に、それまで函館という枠の中で「外人さん」に会う機会が殆どなかった私にはnon-Japaneseの先生による英語の授業は興味津々。

中でもDavid Kidd先生の強烈さは群を抜いていた。色白にやや茶がかかったブロンドの髪、透き通るようなペールブルーの瞳、お年は35歳ぐらい、物静かで声を荒げることはなく、先生の笑顔の記憶もない。淡々と話される英語は音も美しく、また、分かりやすい英語で私は必死に耳を傾けた。テキストは使わず、以前中国に住んでおられたこと、The New YorkerのColumnistでいらっしやること、日本文化に造詣が深いことなどは授業中のお話の端々から私たちが知ったこと。奥が深そうだけど何か近寄りたが、とても不思議な雰囲気が全体から感じられる謎多き先生だった。車はキャディラックとの噂も。

英語の使い方分からないことはないか、と質問させた場面は記憶にあるがどんな質問が出たか、またその答えも覚えていない。それより、「来週は雨だから休講になります。私には傘がないので。」と大真面目な顔で言われたことの方が鮮明に思い出される。別に生徒たちを茶化しているという雰囲気は全くなく、ある日芦屋のお住まいに私たちを呼んで下さった。伊藤忠の社長さんのお宅の一室を借りていらっしやうと記憶するが、通りから通りまであるような大きなお屋敷の一角、招き入れられた大きな部屋は壁はぎっしり本の詰まった書棚で埋り、部屋中に中国から持ち帰られたらしい大きな壺など、美術品が所狭しと置かれ、中に紛れてあちこち眺めていると他の人からは見つからないほど。調度もアンティークな香りのするものだった。紅茶と大きな美味しいクッキーをご馳走になったことは覚えている。

つい最近、和歌山在住のさるアメリカ人がKidd先生の思い出話を書かれた新聞の小さな記事が同級の

一人から送られてきた。頭は学生時代に帰り、もっとKidd先生のことを知りたくなってネット等で調べるうちにとんでもないことが分かった。既にご存知の方もあると思うがここに紹介させて頂く。

Kidd先生は交換留学生として北京に渡り中国文化を深く研究するようになられたが、1949年の中国が共産党政権に変わった政変を逃れるようにアメリカに帰国したものの、中国に住んでいたということで当時のアメリカの「赤狩り」のターゲットになり、アメリカを離れざるを得なくなられた。そして日本に來られ、以前から交流があ

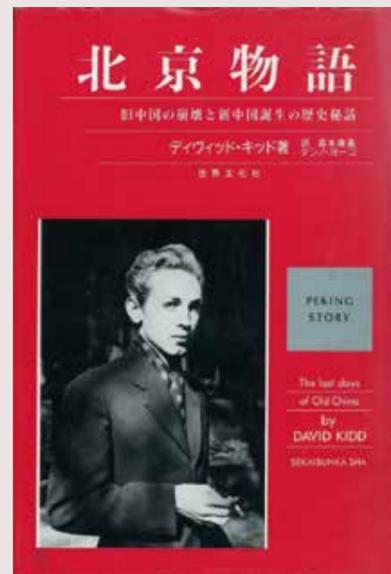
った裏千家家元、千宗室、華道の小原豊雲、大徳寺の住職など、京都の文化人の支えを得てどんどん日本文化にのめり込んでいかれた。

Kidd先生は神戸大、大阪外大での教職を退かれた後、京都三条、九条山の高台で黒塀に囲まれた桃源洞と名付けたお屋敷に住まれ、京都の名だたる文化人との茶会などを楽しみ、また、日本文化の神髄を外国人ばかりでなく日本人にも伝えておられたという。そして、なんとイギリスのロックミュージシャンDavid Bowie(デビッド・ボウイ)に日本文化の大きな影響を与えている。David Bowieは、京都に同じDavidという名の日本文化の粋を

極めている人がいることを知り、Kidd先生を訪ねたことから親交が始まり、来日時には、必ずお忍びで桃源洞を訪れ夜を徹して日本の美を語り合ったという。また坂本龍一さんもDavid Bowieからそのことを知り、後日桃源洞の跡を訪れている。

Kidd先生が持っておられた骨董品の一部を置く桃源堂という、知人の方の古美術兼Caféのお店が京都にあると耳にし、私も一度行ってみたいと思っているうちにそのお店も無くなってしまった。

Kidd先生は1926年の生まれ、1996年69歳で世界された。奇しくもDavid Bowieも同じ69歳でこの世を去っている。



北京物語 旧中国の崩壊と新中国誕生の歴史秘話
京都時代のKidd先生については、下記にアクセスしてください。
ボウイの秘密 #1 もう一人のDAVIDとの邂逅 | 文化・ライブ (kyoto-np.co.jp)
<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/thekyoto/677697>

行き当たりばったりのウズベクスタイルな留学

外国語学部トルコ語専攻 4年
松本 涼



テルメズのカラテバ遺跡にて撮影

私は昨年9月からウズベキスタンのサマルカンドに留学している。サマルカンドはシルクロードやイスラーム建築で名高い、歴史的都市である。人は陽気で、天気も良い。一方で、頻繁なガス切れ・断水・停電・3G回線落ちなど、インフラはいまいちである。食堂やレストランも当たり外れが激しく、またセクハラ概念も存在しない。所々に穴のあく道を走る車はどれも白色。あらゆる面で、まだまだこれからの国である。

さて、日本人にとっての主要な関心事であり私自身そのために渡航を一年延長しているコロナについてだが、この影響はほとんど感じられない。かつては規制が行われていたそうだが、この国で長続きしなかったのも理解できる。一世帯の人数が多く、近所や親戚との交流も重要で、手食の文化もある。おまけに医療リテラシーも低い。感染対策とは、およそ相容れない社会である。そんな訳で私はこちらに来てから1-2か月に一度は風邪を引いているが、そんなものと思って諦めている。

一方で、戦争の影響はいくつか実感している。第一に、ロシア人が増えたことである。特に動員が始まった頃には大きなスーツケースを抱えたロシア人男性を街で見かけることもあった。ロシア資本企業の開業もますます増えたようである。こうした関係で、ロシアに渡航できない日本のロシア語学徒が春から6人もサマルカンドに来ている。第二に、中国の影響力の高まりである。昨年9月の上海サミットをはじめ、ロシアの弱体化を機に一路政策の強化が図られているように感じる。元来中国系住民の多い地域で



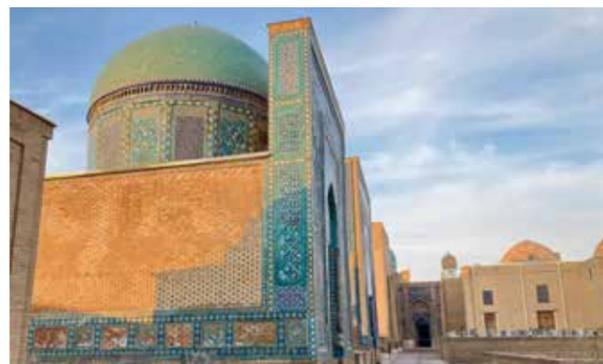
上海サミット時に建設された門
当日は中国文化を紹介する催しが開かれた

留学先のサマルカンド国立大学へは、阪大からは(そしておそらく日本全体でも)初の派遣となった。交換留学の受け入れ事例に乏しい様子で、授業は先生2名による個別のフォローアップという形式で開講された。自由な時間がかなり多かったため、以下のことにも時間を費やした。まず、卒論作成である。留学の主目的である卒論のためのフィールドワークを着実に進めることができた。研究テーマは伝統儀礼の実践であり、結婚式やイードのようなイベントへの参加や家庭訪問をかなり高頻度に行えたので満足している。続いて、隣の大学への潜りである。幸い昨秋よりその大学に日本人研究者が赴任し、日本人がウズベク人にウズベク文化を教えるという妙な状況が生まれていたため、そこへ混ぜてもらうことができた。それから、旅行である。ウズベキスタンにはサマルカンド以外にも特徴ある都市が多く、そのそれぞれを見て回ることによって社会に対し、より多角的な理解を得られた。



Kelin Salom (結婚式の翌朝に新婦が挨拶をする儀式)

ウズベキスタンでは日本のように計画を立てる文化は薄く、何もかもがその場の状況で移り変わる。このため当初は困惑することもあったが、最近はかなり適応してきたと思う。同様に予定が未定な中で、私に様々な機会を与えてくれた方々に感謝するばかりである。帰国まであと僅かな時間を有意義に使いたいが、今学期がいつ終わるのかを私はまだ知らない。



夕陽のシャーヒズインダ廟群

大学4年生からの留学

外国語学部日本語専攻 4年
三村紗也香



ノイシュバンシュタイン城にて撮影

2022年10月から、ドイツのデュッセルドルフという町に約10か月間の日本語教育の実習に来ています。現在は6月ですが、暗くて長い冬を越えてやっと春が来たと思うと5月下旬から一気に気温が上がり、夏らしい天気が続いています。渡独当初は新型コロナウイルス対策として公共交通機関でのマスク着用が義務づけられていた人がほとんどいなくなり、今では生活の中でコロナウイルスの影響を感じることはほとんどありません。その一方で、ロシアのウクライナ侵攻の影響は日々感じています。この9か月の間にも食料品は値上がりが続いています。電気代も上昇しており、3月には学生に対して一律で手当が支給されました。冬は教室の暖房が一定の温度までしか上げられず、例年は効き過ぎで暑いくらいだったそうですが、去年は上着を着たまま授業をする日もありました。幸い私が住む寮は冷えにくく、寒さに困ることはありませんでしたが、友人の中にはとても寒かったという人もいました。

留学は3年生の秋から行くことが多いですが、私は4年生の秋から休学してドイツに来ています。同期が3年生の秋からの留学に申し込む頃は、まだコロナ禍で、留学が実現するか見通しが立たない状況だったので私は申し込めませんでした。実際にはその年から留学が再開していききました。ドイツでの教育実習は1年生の頃から参加したいと思っていたので、進路に対する不安もありましたが、予定より1年遅い4年生の秋から参加することにしました。実習では、大学の日本語学科に実習生として受け入れていただき、TAとして授業に参加したり、週に1度、授業を担当したりしています。授業外では学生と大学のイベントに参加したり、寮で一緒に料理をしたり、町へ一緒に出掛けたりと充実した時間を過ごしています。

大学での実習以外では、ドイツの移民向けドイツ語コースを見学させていただきました。超初心者レベルから始めて2か月目の授業に、2日間参加したのですが、様々な母語を持つ人が授業を受けているためドイツ語のみで授業が進んでいました。担当の先生が、授業を受ける移民の人々にとってこの授業はドイツに来て初めてできるコミュニティなので、ドイツ語を学ぶ場であることに加えて居場所でもあると言われていたのが印象に残っています。生徒はとても積極的で絶え間ないほどに質問をしていたのが印象的でした。先生も生徒の皆さんも、たった2日見学に来るだけの私のことを温かく迎えてくださり、見学に行く前はとても不安だったので本当にありがたかったです。その先生は、授業も楽しくわかりやすく、ロールモデルの1人に出会えたと思っています。



集中講座に参加してくれた学生たちと

留学期間は残り少なくなりましたが、ドイツでの貴重な出会いや社会情勢への不安が残る中送り出してくれた家族に感謝して少しでも学生の役に立てるように毎日を大切に生活していきたいと思っています。



学部対抗サッカー大会



ライン川の風景

60代での起業は遅くない



EVAセラピューティクス展示ブースで友人と

尾崎 拓 (大E29)

自営のコンサルタントとして自宅で仕事をしていたある日、「社会人としては本当に人並だったなあ」とふと気づき、「もしかしてもったいない人生だった?」「自分のポテンシャルを本気で試したか?」「自分の経験を社会に還元する方法はないか?」との思いに至りました。丁度還暦を迎えるまで、そこから起業を目指して動き始めたことが、2021年の株式会社EVAセラピューティクス創業につながりました。ヒトは、「思う」ことが大切だとあらためて知りました。

大阪外国語大学英語学科を1981年卒業後、藤沢薬品工業(現アステラス製薬)に入社。当時卒業生は教職につくか、銀行・商社に就職する方が多かったのですが、ハンズオンで海外進出を直接経験できる医薬品業界を選択しました。27年間一貫して北米での事業開発を担当し、合弁会社の設立や企業買収案件に関わりました。カナダ法人社長を含む11年の北米駐在を経て退職、その後、日米のバイオベンチャーで日本法人社長を務め、2016年より自営の医薬品事業開発コンサルタントとして生計を立てておりました。

複数のベンチャー企業やアカデミアの案件にかかわる事ができたのが幸いでした。様々な医薬品開発の専門家と直接仕事をする機会を得る事により、研究開発から商業生産、販売までの医薬品バリューチェーンを一気通貫でマネジメントできる人材として自分を位置づけることができました。文系出身で専門性は無く、特定機能のスペシャリストにはなれませんでした。機能の隙間を埋める仕事をするうちに、結果として、全てを束ねる総合プロデューサー的な役割を担う様になりました。

EVAセラピューティクスは呼吸不全患者に腸を通じて酸素を補充する「腸呼吸」技術を社会実装する東京医科大学歯科大学発のベンチャー企業です。日本発の種々のバイオ案件に関わるなかで、iPS細胞を使った肝臓再生で著名な同大学武部貴則教授の知己を得、彼が発見した腸呼吸技術を事業化するにあたり、創業経営者として私

に声がかかったという次第です。似たような技術のない独創性と実現可能性が魅力で、このチャレンジを引き受けることにしました。予想どおり日々大変苦労しておりますが、若くして大学教授になった優秀な科学者と仕事をするのはとても刺激的で、楽しく頭を悩ませております。昨年2月に腸呼吸技術の取組が日本オープンイノベーション大賞科学技術大臣賞を受賞し、小林鷹之大臣から賞状

を頂いたのは思いがけない人生の記念になりました。また2023年1月から武部教授が大阪大学医学部の教授を兼務されているのもご縁を感じます。

この稿を読んでいる若い(含自称)皆様には是非お伝えしたいのですが、起業は情熱・楽観性・諦めないメンタルがあれば、だれでもチャレンジできることだと思います。しかし、時間は決して戻ってきませんので、私の様に60代半ばに起業すれば、残された時間は神様次第で運任せです。やりたい夢があれば是非「今」始めて下さい。但し、どの程度のリスクまで許容可能かは、ご自身の人生設計に関わる大事な事なのでそれぞれですが、正解が無い判断をすることも人生の醍醐味と思います。



日本イノベーション大賞表彰式
小林大臣と(2022年2月)

プロフィール



1981年 大阪外国語大学英語学科卒業、藤沢薬品(現アステラス製薬)入社
2007年 バイオジェン・ジャパン代表取締役社長
2012年 株式会社ソーセイ代表取締役社長
2016年 国立がん研究センター企画戦略室アドバイザー(現任)
2017年 アミカス・セラピューティクス・ジャパン社長代行
2021年 株式会社EVAセラピューティクス代表取締役(現任)
<https://evatherapeutics.jp/>

イタリアを学ぶ 一流のファシリテーターを目指して

在大阪イタリア総領事館 上級広報官・総領事補佐 中谷陽子 (大IT38)

1990年春にイタリア語学科を卒業した私は、ある総合商社にご縁をいただいた。男女雇用機会均等法が制定されて間もない頃で、一堂に会した80名の総合職同期生を見渡すと私以外79名が全員男性で驚いたことを覚えている。配属された部署の既存商売は、インドネシアで生産したコタツの脚やマレーシアで生産した長靴の輸入などで、アジア圏中心の輸出入業務に関わる日々を過ごす中、ある日新規商売としてイタリア家具輸入を担当するチャンスが巡ってきた。時代の波に乗ったこともあり新築ホテルや新築マンションを棟丸ごとイタリア家具で内装するか空港ロビーの椅子を全てイタリア製のものに入れ替えてリノベーションするなどコントラクトビジネスと呼ばれる案件が飛ぶ鳥落とす勢いで成約し続けた。渡伊して目星をつけた家具を日本企業へ紹介したり、日本企業の顧客をイタリアへ案内したりすることが第一歩。話がまとまったら発注し、為替を予約し、輸送を手配し、輸送保険をかけ、日本に届いたら輸入通関と客先までの搬送を手配する。

一連の輸入取引に関わるうちに輸送分野に特に興味を惹かれ、国際貨物輸送業界へ転職することになる。まずスイス企業、その後ドイツ企業に在籍した。世界各国との輸送に関わり貨物輸送の極意を学びつつ、今では当たり前のアパレル製品のハンガー空輸や冷蔵混載船舶輸送などイタリア・日本間の運送において業界初のサービスを次々打ち出し、イタリアを含む欧州各国への出張を繰り返しながら新規顧客獲得に邁進した。

その後、イタリア経済発展省直轄の出先機関イタリア貿易振興会(現在はイタリア大使館・貿易促進部と改称)での勤務を経て、在大阪イタリア総領事館での公募に応じ、今に至る。経済商務担当として採用され、現在は総領事補佐と広報を兼任、イタリアの文化、製品、技術などを紹介すべく講演会や展示会など多様な企画を

運営するほか、イタリアから来日するハイレベル訪問団の受け入れにも関わる。G20、G7、国際会合、ワールドカップなど世界規模の催しへの訪問団は膨大な数になる。プロトコル絶対遵守、ミスは許されず、定刻に全てが完璧に仕上がっていなければならない、しかも土壇場での変更は当たり前というプレッシャーとの闘いの毎日だ。ややもすると通訳としての側面が目を引きがちだし、実際通訳業務を務めることも多いのだが、実のところ、言語変換以上に重要な意味を持つのが文化的変換を含めたファシリテーターとしての役割だと考えている。ひとつの言葉が発された状況において持つ意味を瞬時に理解し、日本語に、またイタリア語に置き換える。勿論発言の趣旨を変えることは許されないが、時として辞書的変換とは異なる言葉に落とし込むこともあ



る。大学で、そして卒業以来関わってきた仕事で学んできた全ての知識を総動員して。うまく作用した時の満足感は何にも替え難い。これを実現するためには、日本イタリア双方の文化を深く理解する必要がある。そして文化とは常に変化し続けるものだからこそ、自らをアップデートし続けることが自己研鑽の鍵となるのだ。そんなわけで、卒業から33年、真摯にイタリアを学び続けている。

プロフィール
1990年大阪外国語大学イタリア語学科卒業後、総合商社に総合職として就職。国際貨物輸送業界への転職を経て、イタリア貿易振興会(現イタリア大使館・貿易促進部)に勤務。その後2010年に在大阪イタリア総領事館に経済商務担当として採用される。総領事補佐との兼務を経て、現在は上級広報官 兼 総領事補佐として奉職。2017年12月、イタリアと日本をつなぐ架け橋として長年貢献した功績により、第2回「大阪サカヤヒメ表彰」*受賞。大阪市・ミラノ市姉妹都市提携35周年事業への尽力に加え、日伊国交150周年事業への貢献等が認められた。



*大阪サカヤヒメ表彰について
企業活動や文化的活動で活躍する女性リーダーを表彰するもので、大阪商工会議所前会頭、佐藤茂雄氏の辞世の句「やはりはたサカヤヒメ達 六歳経つ」の「サカヤヒメ」に因み、顕彰事業として2016年度に創設。詳細については、下記サイトをご覧ください。
<https://www.osaka.cci.or.jp/osakakuyahime/>



東京で久々の個展とライブとアーカイブを始めた話。

何十年も全くのご無沙汰中の大学からの原稿依頼に驚いた。大学1年から在籍したグリークラブと3年時に友人の芦田君と二人で始めて、ギタリストの中川信隆氏を迎えてのギターマンドリンクラブにはせっせと通ったが、学業の方はさっぱり？60歳からの15年は8回も行ったアフリカのサファリから宗旨替えして好きなイタリア、スペイン、ポルトガルには何度もフラフラと通った。当時、教えていた大学のゼミ生たちと、南蛮屏風の逆版、日本文化を紹介するアニメーション屏風を作ってリスボンやポルトを巡ったりした。

コロナ以後はおとなしい。ボクらの時代は高度成長期の始まりで、引く手あまたの中、どうしても、クラシックギターか、漫画、アニメの道しかボクには無いと決断して大阪を後にした。当時のグリーやギタマン同級生もいなくなったなあ。今やまったく珍しくないが、当時はなんでまた外語大を出てアニメ？と不思議な顔をされた。

4月に東京では久しぶりの個展をやった。祇園の小さなカフェギャラリーでは時々、京都に行きたくて、個展をやるが、東京はしばらくぶり。昔からのモノクロ線画ばかり集めたデッサン・ユーモア集「takupedia」出版と新作短篇アニメ「フィクション信貴山」を披露した。(takupediaについては <https://anido.ocnk.net/product-group/6> 参照) 今や世界共通言語化？した日本のアニメだが、ボクはイラストレーション、絵本、TV-CM、NHK みんなのうたなどの仕事しながら、好きに短篇作品を作ってきた。但し、大学途中から最初に飛び込んだのはまだ放映前の「鉄人28号」第1話の制作現場だった。



画集「takupedia」の見返し。2019年の日本人の顔がいっぱい。



短篇アニメーション「はなののはなし」に合わせたjazzライブ演奏中。

個展の1週間前に杉並公会堂小ホールでライブも。これは自らをダイノサクソと呼ぶ、恐竜好きサクソの巨匠、本多俊之を迎えて作品の音楽でタグを組んだリントザウルス(りんたろう「メトロポリス」)タクノドン(古川タク「上京物語」)によるトリケラトール、さらにはジャズピアノの熱血漢、板橋文夫が乱入してのボクのアニメに合わせたの原曲ぶち壊し、大暴れジャズセッションの思いっきり楽しい一夜になった。本多さんは随分若い頃から伊丹十三監督「マルサの女」の音楽で一世風靡した天才肌だ。ボクが短篇アニメーションを作り始めた70年代まではフィルム時代だったので、当然のことながら劣化が激しく、90年代終わり頃からのデジタル作品以前の35mmフィルム時代のネガ、ポジフィルムは最近全部国立映画アーカイブに寄贈した。あとは文化庁のサポートによる、ボクの作品のデジタルアーカイブが去年からやっとスタートしたところである。原画などの資料の類も整理してデジタルではなく現物をどこかに保管できるか、色々やることは多いのですが、つつい毎日を楽しく遊べる面白企画の方ばかりに足が勝手にフラフラ行ってしまうがちなのは困ったものです。

古川タク (大S12)
イラストレーター・アニメーション作家



個展会場にてサイン会。

略歴
1941年三重生まれ。TCJ、久里実験漫画工房を経て70年代よりフリーランスのイラストレーター、アニメーション作家として活動。新千歳空港国際アニメーション映画祭名誉実行委員長、日本アニメーション協会(JAA)名誉会長。2004年紫綬褒章・2012年旭日小綬章。

ポルトガル語専攻の今 坂東照啓

大阪大学人文学研究科外国語専攻 准教授
外国語学部 ポルトガル語専攻 准教授

猛威を振った新型コロナウイルス感染症の流行も、今年の春になってマスク着用が個人の判断とされ、感染症法上の取扱いも5類となって、ようやく収束したといえる状態になりました。ポルトガル語専攻も、新型コロナウイルス感染症の流行による影響は大きく受けました。しかし、現在は海外渡航制限も解かれましたので、海外留学も復活し、さらにコロナ禍で続いた不自由な環境の中で教員、学生ともに協力して培った工夫は、逆境の産物とも言えるもので、私たちの学びに大いに活かされています。

現在、ポルトガル語専攻は、1学年定員29名で、これに日本語専攻の学生2名が専攻語実習に加わります。専任教員は、平田先生、鳥居先生、鳥越先生、私(坂東)とブラジル人のデゼン先生です。1年生の専攻語の授業は豊中キャンパスで行われて、2年次になると専攻語の授業が箕面キャンパスに移りますが、この2年間でポルトガル語の基礎をしっかりと身につけられるよう、この私たち専任教員が教育指導にあたっています。3年次以降は、専任教員とは異なる分野にも精通し専門知識を有する非常勤の先生方にも授業をお願いし、ポルトガル語専攻生が幅広くポルトガル語圏の言語、文学、歴史などを学ぶことができる体制がとられています。

ポルトガル語専攻生が学部での学びの総仕上げとして執筆する卒業論文も、近年はネットから文献資料が収集しやすく、調査分析も新たな方法で行えるようになってきたので、新しいテーマだけでなく、新たな方法によって見直され、再考察されるテーマも出てきています。

今年度は、3年余りのコロナ禍の期間にたまったエネルギーがまさに爆発しているような状況で、海外へ留学する学生も激増しています。そのバイタリティーに私の方も刺激を受けていますが、このところ人工知能の開発発展によって、DeepLやChatGPTなどを利用してレベルの高い機械翻訳ができるようになり、外国語の教育指導・学習の環境は大きな変革期を



「2年生授業風景」箕面キャンパスにおけるデゼン先生の授業



「ブラジル独立200周年記念イベント」東明彦先生によるご講演風景

インドネシア語専攻の今 原真由子

大阪大学人文学研究科外国語専攻 教授
外国語学部 インドネシア語専攻 教授

現在、外国語学部インドネシア語専攻には約60人の学生が在籍しています。教員は、専任教員3人(原、菅原由美先生、松村智雄先生)と特任教員のシンティア・フィエンティアニ先生です。各学年十数人程度の小さな専攻語ですが、いろんなタイプの学生がそれぞれ元気に頑張っています。コツコツタイプ、短期集中タイプ、マイペースタイプ等々、違いはありますが、皆授業に真面目に取り組む姿勢は変わりません。また、学年を超えた交流も活発で、箕面の山が見える共同研究室ではいつも先輩と後輩が混じって和気藹々とおしゃべりしたり勉強したりしています。

この数年のコロナ禍の間も対面授業が主体だったため、インドネシア語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能の能力を高めつつ、それに基づいてインドネシアの文化・社会について深く学ぶというカリキュラムは十分に行うことができたと思います。ただ、残念ながらインドネシアへの留学や旅行を切望していたにも関わらず、その機会なく卒業せざるを得なかった学生が多くいたことも確かです。ようやく昨年くらいから制限が緩和され、インドネシアへの留学が可能になり、多くの学生が現地でしかできない経験を積んでいます。

昨年の夏休みには、現地へのスタディツアーが復活し、菅原先生の引率のもと、1~3年生の計29人が約2週間、ジョグジャカルタに滞在しました。3年生は、大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」として研究費補助を受け、コロナ禍がインドネシアの大学生の生活にどのような影響を与えたのかというテーマで、アンケートやインタビューによる調査を現地で実施し、その成果は優秀賞を受賞しました。

また、インドネシア語劇の伝統はしっかり受け継がれており、ほぼ途切れず2年生が中心となり上演しています。昨年は、Timun Masというジャワの民話をもとにした劇を上演しました。驚くことに、年老いた寡婦の役を男子学生が演じました。かつて男役を女子学生が演じることは度々ありましたが、私が知る限りその逆はなかったと記憶しています。今年も準備が始まっているようで、どんな劇を見せてくれるのか楽しみです。



卒業式

第42回夏まつり

大阪大学夏まつり実行委員会委員長 堀江海渡
ロシア語専攻2年



みなさんこんにちは。第42回夏まつり実行委員会委員長の堀江です。まずは、今年度も7月1日に皆様のご協力のおかげで「夏まつり」を無事に開催することができましたこと、部員を代表して深く感謝申し上げます。

さて、今年度の「夏まつり」は新箕面キャンパスでの2回目の開催となりました。3年ぶり、そして移転後初めての開催となった前年度の反省を生かし、今年度はよりよい「夏まつり」を迎えられました。前年度に比べて大きく変わった点は、なんといっても感染症対策を撤廃したことです。昨今の情勢に伴い、前年度行っていた事前予約制の入場制限などをなくしたため、昨年に比べてより多くの方々にご来場いただくことができました。

準備段階ではたくさんの苦勞がありました。前年度の実験があるとはいえ、大きなイベントを開催することはそう容易いものではありませんでした。特に4月に入り新学期が始まってからは、とても忙しい毎日でした。アルバイトや授業、睡眠時間を削って準備を行うことはそう珍しくなかったです。しかし、本番は小雨が続く天候には恵まれませんでした。先ほども述べたように昨年以上の来場者数を記録し、大きなトラブルもなく、そしてなによりご来場いただいた方々がみんな楽しそうにしてくれていたのが嬉しかったです。部員一丸となり頑張ってきた甲斐があったなと実感した瞬間でした。

最後に、今年度の「夏まつり」開催にあたりご協賛、ご協力いただきました企業様、団体様、関係者の皆様、そして当日ご来場いただいた多くの方々にもう一度心より感謝申し上げます。来年度以降も「夏まつり」を開催し、そしてより大きなイベントへと昇華できるよう努めてまいりますので、今後とも応援のほどよろしく願いいたします。

世界とつなぐ語劇祭 ～みんなが参加したい行事へ～

2023年度語劇祭実行委員会委員長 スワヒリ語専攻2年 甲斐想奈



こんにちは。2023年度語劇祭実行委員会委員長を務めます、スワヒリ語専攻2年の甲斐想奈です。

語劇祭は普段あまり耳にしないような言語を、その文化とともに触られることが醍醐味だと思っています。新型コロナウイルスの制限も緩やかになり、海外との往来も増えてきました。このような中で大阪大学外国語学部が世界とつながるための架け橋になればと願っています。

さて、昨年度の語劇祭は25専攻中、18専攻が参加しました。今年度は昨年度より多くの専攻が参加することを期待しています。語劇祭の準備は台本や衣装、小道具作りなど大変なことが多いですが専攻での結束力を高めたり、その言語に対する知識も深めたりできる良い機会です。そして語劇祭の取り組みが各専攻語内で伝統になり、後輩へ受け継がれていき、さらには全専攻が参加したいと思えるような行事にしていきたいです。

「誰か」になれる語劇祭

2023年度語劇祭実行委員会委員長 ペルシア語専攻3年 渡辺夏生

今年度の語劇祭実行委員長の渡辺夏生と申します。

語劇祭は大阪外国語大学時代から始まり、現在でも続く伝統ある行事で学生たちが主体となって開催しております。私は先輩方が一つの演目を協力して作り、達成感に満ち溢れた顔を3年間にわたって見てきました。そして今度は私が先輩方が輝いていた場所を今まで以上に魅力的な場所として作り上げていこうと考えております。

子供の頃から自分とは全く異なる「誰か」になることができる演劇が好きでした。語劇祭では、日本人という枠を超えて誰かになることができます。未来ある若者が「誰か」になる過程で「誰か」になれる語劇祭を経験したことは大きな財産になり、かけがえのない思い出として残っていくことでしょう。

今年度の語劇祭に携わった全員が満足できるように、実行委員長を努めてまいります。



阪大ふくふくセンターの設立

大阪大学大学院人文学研究科附属 複言語・複文化共存社会研究センター委員 矢元貴美

大阪大学大学院人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センター（通称：阪大ふくふくセンター）は、25言語の教育・研究を活かし、外国にルーツを持つ子どもたちの学びを支えるため、2023年4月1日、箕面キャンパスに設立されました。

箕面キャンパスでは大阪外国語大学時代から、教員・学生・卒業生らが、自治体、教育委員会、学校等からの支援依頼を受けてきましたが、組織的な対応、情報共有、人材育成、情報発信等の課題を抱えていました。本センターの設立により、それらの課題を解消するとともに、多様な文化的・言語的背景を持つ子どもたちが、自分の言語や文化を活用し、ルーツに誇りを持って成長できるよう、地域社会、自治体、学校の取り組みに対する



第1回メディエーター登録説明会の様子

サポートを通して、言語間や文化間、人と人との仲介者（メディエーター）としての役割を果たし、社会課題の解決を図ります。

本センターでは、主に学校現場において、異なる立場にいる人々を仲介する役割を担うメディエーターを年2回募集・登録し、現場に紹介しています。5月1日に実施した登録説明会には、卒業生や他キャンパス所属の学生も含め90名が参加し、既に複数の学生が教科学習や母語・母文化学習等の支援活動に携わっています。メディエーターとしての活動をご希望の方は登録説明会にご参加ください。また、協働をご希望の学校や団体の皆様からのご連絡もお待ちしております。



小学校でルーツの国の食を学ぶ子どもたちと阪大生

卒業生の皆様にもご参加いただける講演会や各種イベントも実施いたします。10月21日（土）には、第1回大阪大学外国語学部・外国学専攻シンポジウム「言葉を究めて世界へはばたく」が、本センターの設立記念イベントとして開催されます。



詳細はホームページに掲載しております。皆様どうぞご参加ください。

<https://derc.hmt.osaka-u.ac.jp>



大阪大学未来基金「外国にルーツを持つ子どもたちの支援環境充実事業」へのご支援も賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/derc>

北摂地域での
お集まりに

ご宴会・ご宿泊・レストラン
ご予約承ります。

千里阪急ホテル

大阪メトロ御堂筋線(北大阪急行)・大阪モノレール「千里中央駅」徒歩約5分

ご予約
お問い合わせ **06-6372-8800** (法人セールス)

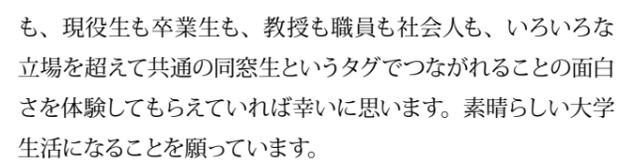
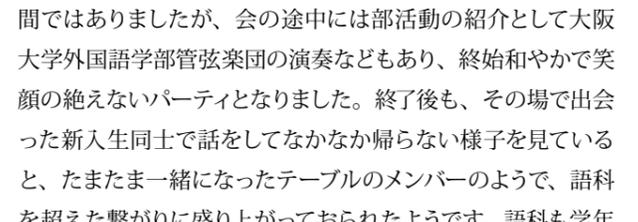
「新入生 Welcome Party! 2023」開催

若手活性委員会 / 在校生支援委員会委員 後藤 峻
(夜 F42)

新入生ウェルカムパーティが4年ぶりに開催されました。咲耶会としてできる新歓パーティを毎年検討するなかで、年齢や所属などを越えて「同じ同窓生」として一緒になって繋がる機会づくりを今年も目指しました。今回は卒業生として、咲耶会から竹村景子名誉会長、大内一会長、井上泰子副会長に並川嘉文・福山泰海・菊池信孝の各幹事、そして大学の箕面事務部に勤める山崎有紀子さん、菅野未有さんを加え、8名の方にサポートいただきました。



内容は、咲耶会の組織と活動の紹介、ゲスト教授陣&職員さんがガイドする箕面キャンパスツアー。会の後半は毎回定番となる、参加者一同での自己紹介ゲームなどを行いました。3時間ではありましたが、会の途中には部活動の紹介として大阪大学外国語学部管弦楽団の演奏もあり、終始和やかで笑顔の絶えないパーティとなりました。終了後も、その場で出会った新入生同士で話をしなかな帰らない様子を見ていると、たまたま一緒になったテーブルのメンバーのようで、語科を超えた繋がりに盛り上がりおられたようです。語科も学年も、現役生も卒業生も、教授も職員も社会人も、いろいろな立場を超えて共通の同窓生というタグでつながれることの面白さを体験してもらえていれば幸いに思います。素晴らしい大学生活になることを願っています。



着任のメッセージ



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
モンゴル語 特任講師
BYAMBAJAV TUVSHINTUGS
ビャンバジャブ トゥブシントウグス

本年4月にモンゴル国から、本学外国語学部モンゴル語専攻の外国人特任教員として赴任しました。ロシアや中国でのモンゴル語の教授経験があります。専門は、アルタイ言語学、モンゴル語・満洲語比較研究、モンゴル歴史言語学等です。モンゴルの言葉と文化の教授のために邁進いたします。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
タイ語 特任講師
PEWORCHAI PASSAPONG
ピウポーチャイ パーサポン

2023年4月に着任いたしました。私は外国語としてのタイ語教育に特に関心をもっているため、本学で日本人の学生にタイ語を教えられることは、大変価値のある経験になると考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
マルチリンガル・エキスパート養成プログラム 特任助教
田所 朱莉
たどころ あかり

学部・大学院時代を過ごした母校に、この度教員として迎えていただき、大変嬉しく存じます。私の専門はアメリカ演劇で、特にアフリカ系アメリカ人女性劇作家、Suzan-Lori Parksのドラマツルギーを研究してきました。学生の皆さんと共に勉強できるのを楽しみにしております。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
ベトナム語 特任講師
HOANG ANH THI
ホアン アイン ティ

今年4月に大阪大学に着任する前は、ハノイ国家大学で34年間ベトナム語教育に携わってきました。グローバル化の時代においては、外国語だけではなく、その言語が話される国の文化をも学んだり研究したりすることが不可欠です。私は、私たちこそが、言語と文化の使者であるはずだと信じています。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
中国語 特任講師
郭 修静
カク シュウセイ

私は台湾出身で、1998年来阪、大学院を出た後、非常勤講師として長い間お世話になりました。世界言語研究センターの社会人教育プロジェクトの一員として4年間、中国語の学習コンテンツの制作に携わっていました。また4年前には3年間の特任講師として、専攻の授業を主に担当させていただきました。今年度からもこれまで同様に学生と大学を愛し、語科の先生方の期待に沿えるように、全力で頑張ります。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
ロシア語 特任講師
PODOLSKAYA VALERIYA
ポドリスカヤ ワレリヤ

ロシア語を教えているワレリヤ・ポドリスカヤと申します。自分の目標は、ロシア語の美しさと魅力を伝えるということです。お互いの国の文化などを理解し合うことができるために、文法、語彙だけでなく、母国の文化の特徴や人の考え方を教えるのは不可欠だと思っております。外国語を学習すると、人生が変わると信じており、そのチャンスをつかんでみてください！



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
スウェーデン語 特任講師
WIKSTROEM JOSEF ROBERT
ヴィークストルム ヨーセフ ロバート

My name is Josef Wikström and as of April 1 this year, I work as a lecturer of Swedish here at Osaka University. I previously worked as a lecturer of Swedish at Comenius University in Bratislava, Slovakia. My research has been focused on inclusive education and the role of different linguistic-cultural theories in language teaching, something I wish to continue investigating while working at Osaka University.

◆令和4年度退職教員

- 當野能之 人文学研究科 准教授(スウェーデン語)(ご逝去)
- 橋 宏亮 人文学研究科 講師(ドイツ語)
- 秦 秀美 人文学研究科 助教(日本語)
- ZHANG HENGYUE 人文学研究科 特任准教授(常勤)(中国語)
- MAGSARJAV BAYARSAIKHAN 人文学研究科 特任講師(常勤)(モンゴル語)
- Buranapatana Maliwan 人文学研究科 特任講師(常勤)(タイ語)
- NGUYEN THI NGOC THO 人文学研究科 特任講師(常勤)(ベトナム語)
- SINGH VED PRAKASH 人文学研究科 特任講師(常勤)(ヒンディー語)
- ISACK ZAINABU KASSU 人文学研究科 特任講師(常勤)(スワヒリ語)
- SHCHEPETUNINA MARINA 人文学研究科 特任講師(常勤)(ロシア語)
- TERRYDOTTER INGRID LENA-MARIE 人文学研究科 特任講師(常勤)スウェーデン語
- 久保公人 外国学専攻(兼修語学改革プロジェクト)特任准教授(常勤)
- 三宅一平 マルチリンガル・エキスパート養成プログラム 特任助教(常勤)

◆令和5年度退職教員(令和5年7月末現在)

- 藤家洋昭 人文学研究科 准教授(トルコ語)(ご逝去)
- KOVÁCS Renáta 人文学研究科 特任准教授(ハンガリー語)

◆告知板

◆受勲者・受賞者のご披露

●グロリア・アルティス金メダル(ポーランドの文化功労勲章)

澤田和彦氏(埼玉大学名誉教授)(大R23)
『プロニスワフ・ピウスツキ伝：<アイヌ王>と呼ばれたポーランド人』(成文社)など、長年のピウスツキ研究により、ポーランド共和国の文化功労勲章である「グロリア・アルティス金メダル」を授与された。

●「グシ国際平和賞」受賞

塩尻和子氏(筑波大学名誉教授、アラブ調査室長)(大A15)
フィリピンの「グシ慈善団体」から、様々な分野で世界の平和と進歩に貢献した人、或いは、団体に贈られる「グシ国際平和賞」(Gusi Peace Prize International)を授与された。「平和的な宗教間対話の推進とイスラーム理解」が受賞理由とされた。

部活動の広場



2021年2月「さようなら・ありがとう箕面キャンパスコート」打ち納めテニス会

「ラ・ポーム倶楽部」
～テニス部OB・OGの集いの場～

ラ・ポーム倶楽部会長 中西雅治(大E27)

2007年に大阪大学と統合されて体育会テニス部は阪大テニス部に一本化されましたが、OB・OG会は「ラ・ポーム倶楽部」という名称で独自の活動を続けていくことになりました。そして1月の初打ち会、6月の総会、9月の浜名湖での東西合同合宿、12月の忘年テニス・忘年会が恒例行事となりました。現役最後の合宿の地となった浜名湖でのOB・OGによる合宿もコロナ禍で中止を余儀なくされていましたが、今年にはようやく復活の運びとなっています。



2019年9月浜名湖東西合同合宿

学部移転に伴いコートがなくなるということで、2021年2月には「さようなら・ありがとう箕面キャンパスコート」打ち納めテニス会というイベントに大勢が集って名残を惜しまました。集合写真の時に一瞬手に持たれたマスクから当時の状況が窺えます。部員の頑張りや成長を長年見守ってくれたホームコートが姿を消すことになってしまったのは大変残念なことです。しかし語学とテニスの部活動に励んだ人達が、テニスというスポーツを通して今後も繋がっていく場が永く続いていくことを願ってやみません。

大徳寺精進料理

大徳寺 一久

津田 真須美(大C42)

〒603-8215 京都市北区紫野下門前町

☎ 075-493-0019



1982年の創立メンバーと2022年の現役メンバーによる40周年記念試合

軟式野球同好会トレ・フォール
創立40周年を祝う

亀井克之(大F33・II E19・院F20)

軟式野球同好会、大阪外大トレ・フォールは1982年4月29日に粟生間谷キャンパスのグラウンドで初試合を行って創設されました。「大阪外大に一つくらい草野球チームがあってもいいじゃないか」が創設理念でした。チーム名のトレ・フォールは、当時、ソフトボール大会3連覇中で無敵だったフランス語学科のチーム名「むちゃんこ強い」のフランス語です。

野球を愛する外大生に愛され続け、2022年に創立40周年を迎えました。大阪大学の軟式野球サークルの一つとなってからも、トレ・フォールというチーム名は継承され、1983年春の初出場以来、今も箕面市民野球大会に春秋年2回出場し続けています。

創立40周年を迎えた2022年はさまざまな祝賀イベントが行われました。まず3月21日、大阪シティ信用金庫スタジアムに創設メンバーと現役メンバーが集い、40周年記念試合を行いました。11月23日には、西武や阪神でヘッドコーチを務めた野球評論家の黒田正宏さんの講演会が行われました。トレ・フォール創設の1982年に南海ホークスから西武ライオンズに移籍したことが人生の転機となった方です。名誉顧問になっていただきました。

次は創立50周年に向け、トレ・フォールは野球を愛し続けて活動しています。

令和4年度 咲耶会総会のご報告

令和4年度咲耶会総会が11月12日(土)、箕面新キャンパス「大阪外国語大学記念ホール」にて、オンライン併用で開催されました。長引くコロナ禍により、講演会、懇親会のない、議案審議のみの総会は、予想を超え、3年続きとなりました。

会場出席者31名、オンラインでの出席者40名、委任状提出者141名、計212名での開催となり、簡素ながら、会員の皆様の温かいご支援を感じる総会となりました。

大水勇会長、竹村景子名誉会長のご挨拶につづき、令和3年度の決算報告と令和4年度の予算案を審議、賛成多数により承認されました。入会金収入、年会費・賛助金収入ともに前年度を下回りましたが、同窓生名簿作成協力金の臨時収入とコロナ禍による活動費の減少により、何とか10万円余りの黒字を維持。2年続きでプライマリーバランスを達成できたことは、ありがたいことでした。

本部役員の選任では、4年間会長として尽力された大水勇会長が相談役に退かれ、元外国語学部長で、大阪大学名誉教授の大内一先生が新会長に就任されました。

副会長の小林正受氏、幹事の西尾齊氏、深川泰博氏、後藤峻氏、相談役の少徳敬雄氏は再任。新しく、青木伸也氏(大TV28)が副会長に、川村芳範氏(大TV24)と矢元貴美先生(大PH50/院前東南ア8)が幹事に選任されました。

報告事項では、第7回「咲耶出版大賞」の選考結果を石野伸子選考委員長から発表。表彰式は割愛、受賞者のスピーチに代えて、大賞受賞者の三木雄一郎氏の感想文を咲耶会のホームページに掲載する旨伝えられました。

大阪外国語大学創立100周年記念事業の募金活動の報告については、会報『咲耶』33号に掲載していますが、本総会にて、改めてお礼とともにご報告いたしました。(文責:井上泰子)

会費のクレジット決済をご活用ください

2018年4月から、咲耶会では会員の皆さまからの会費、賛助金を少しでもご協力していただきやすくするために、クレジット決済を導入しています。年々、会員が増加し咲耶会活動にかかる予算も増加する中、皆さまのご協力、ご支援で咲耶会活動の活性化と母校支援を充実させていきたいと存じます。海外からのお支払いも便利になりましたので、海外支部の皆さまには、ぜひご活用いただけますよう、よろしく願いいたします。詳細は、咲耶会ホームページをご覧ください。

このクレジット決済は咲耶会のデータ管理、名簿作成で長年業務委託している株式会社サラトのシステムを利用していますが、クレジット決済に関するクレジット情報は三井住友ファイナンシャルサービスにのみ残るシステムで運用していますので安心してご利用ください。

※ご利用いただけるクレジットカードは、  VISA、Masterのみです。

※咲耶会ホームページから、クレジット決済ページへアクセスすることができます。

<咲耶会ホームページ> sakuyakai.net

なお、2019年度から、会報『咲耶』賛助金を、会報以外の多目的に活用させていただくため、単に「賛助金」といたしております。皆さまの温かいご理解のもとご支援よろしくご願ひ申し上げます。

コンビニエンスストア・郵便局でのお支払いに関する留意点

- 振込用紙のコンビニバーコードでスマホ決済が可能になりました。
- ◇昨年度よりコンビニ用バーコードをスマートフォンの以下のアプリで決済できるようになりました。ご利用方法につきましては各アプリのホームページでご確認ください。
- ◇ご利用可能なアプリ: PayPay, auPay, LINEPay, PayB

- 郵便局での窓口現金振込に手数料が発生します。
- ◇2022年1月17日より、郵便局から現金でお振込みいただく場合、振込金額以外に振込人負担として110円が加算されることになりました。従来、払込料金が受取人負担の場合、振込人の負担はありませんでしたが、今後はご注意ください。郵貯通帳や郵貯カードでお振込みいただく場合、この手数料110円は加算されません。

毎年、当会より会員の皆さまへ送付する同窓会報に振込用紙を同封しています。お手元に届きました振込用紙をご利用ください。振込用紙を紛失した方は、郵便局もしくはクレジットカードでの払い込みをお願いいたします。(コンビニエンスストアでの払い込みはできません。)払込手数料は、当会が負担いたします。ご利用いただけるコンビニエンスストアは以下のとおりです。



- 振込用紙は下記の3種類を同封しています。
- ③については、別紙となっています。
- ①年会費3,000円のみ送付用(郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
- ②年会費・賛助金一括送付用(年会費3,000円、賛助金一口3,000円、計6,000円を一括してお送りいただけます。郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
- ③年会費3,000円+賛助金2口以上の一括送付用(郵便局でご利用ください。金額欄は空欄です。年会費と賛助金の合計額をご記入ください。)

G7の裏側と溝上先生

今年5月、G7広島サミットが開催されました。インドのモディ首相が来日され、首相直々の指名により、溝上富夫名誉教授と会見されました。近年、著しい経済発展によりインドへの注目は高まる一方で、この機会にモディ首相との面談を望む財界の著名人も多かったと思われます。そんな中、首相直々の指名で会見がなされたのは、各国首脳を除けば、溝上先生ともう一名のみでした。



写真はインド政府提供

モディ首相はSNS界では世界2位のフォロワー数を誇るインフルエンサーで、この会見の様子はBBC、CNN、CNBC、INDIA Today等、各国報道機関でも取り上げられています。多数の謁見希望者の中で、溝上先生にお声がかかったのは、ただ一人、ヒンディー語が話せたこと、長年にわたる日本におけるヒンディー語の普及と日印文化交流活性化への貢献より、2018年インド政府からパドマ・シュリー(蓮華勲章)を授与されたことによるものと思われます。

ちなみに、モディ首相との会談は、ウクライナのゼレンスキー大統領との会談の直後であり、首相が指名したもう一人の日本人が、昨年の「咲耶出版大賞」の授賞作『泥の裾』の挿絵画家で、広島在住の高山博子氏であったとのこと。

創設者 林蝶子氏の墓前にて、創立100周年記念事業をご報告

2021年は、母校のルーツである大阪外国語学校の創設から100年の記念すべき年でした。

コロナ禍により延期となりましたが、2022年5月1日、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念式典が無事終了しました。このことを、母校の創設者である林蝶子氏の墓前に報告し、感謝の意を伝えたいという是永駿元



学長からの提案を受け、秋の深まりを感じる11月3日(祝)、大阪外国語学校創設の地、上本町8丁目からほど近い菩提寺の日光寺にお参りました。

参加者は、是永駿元学長、竹村景子学部長、大水勇会長(当時)、小林正受副会長、荒木和夫副会長、井上泰子副会長の6名でした。当日は清々しい秋日和で、林蝶子氏の墓前にて同窓の結束を誓い、母校のますますの発展を祈願しました。

林蝶子氏は、海運業で財を成した亡き夫、林竹三郎氏の遺志を継いで、「大阪に国際人を育てる学校を」という理念のもとに、当時大金であった100万円を国に寄付し、母校創設に貢献された方です。その偉業を称えた顕彰銅版が、新キャンパス2階のホワイエに飾られています。

咲耶会 ワインを楽しむ会

若手活性化委員会委員長/在学生支援委員会委員 **福山泰海** (大H59)

今年の4月から3か月に1回のペースを目標に、「ワインを楽しむ会」を始めました。場所は大阪市北浜にある「キャラント・キャトル」というフレンチレストランで、1回目(4/1)は10名、2回目(7/29)は15名が参加しました。会の趣旨は親睦です。



これまで咲耶会には語科別の集まりや、地域や本部での親睦会はありましたが、「楽しむ」を目的にしたラフで頻度の高い出合いの場はなかったように思えます。この「ワインを楽しむ会」では、退職世代はもちろんのこと、学生や新卒者もおり、またキャリア面で見てもさまざまな面で活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。人と人のご縁というのは不思議なもので、立ち話をするだけでもどうしても表面的な挨拶になりがちです。それが、席を設け、食事をし、お酒を交わすと、一見縁遠かったはずの人でも色々な接点に気付き、楽しい出会いへと変わります。私が考えるに、外国語学習を始めた在学中から社会人になった今に至るまで、話す人がいてこそその学業に職業だと思えます。いかにして深く人と交われるか。いかにして多くの人と関われるか。これは私の野望ではありますが、大阪大学中之島センターには100億円もの募金事業を掲げた「リーガロイヤルホテル」の出張サロンがあります。ここを、来年中を目標に、咲耶会として使えるような組織規模にしていきたいです。読者の皆さまには、ご協力、よろしく願いいたします。参加申し込みはこのQRコードまで。



咲耶会特別企画2023
「夏まに届け! チェキ100枚メッセージ」



7月1日(土)、新キャンパスで2度目の「夏まつり」が開催されました。朝からあいにくのお天気でしたが、コロナによる制限がなくなり、昨年を上回る盛況でした。

外大時代からつづく伝統行事で、旧間谷キャンパス時代には、咲耶会のイベントとして「古本市」を出店するのが恒例でした。一昨年の「箕面国際フェスティバル」、昨年の「夏まつり」でも好評であったことから、今回も「大阪外国語大学記念ホール」での屋内展示・イベント企画に参加しました。外国語学部のルーツである大阪外国語大学の歴史や咲耶会の諸活動を紹介する写真パネルや資料を展示、現役学生や卒業生、留学生や地域の方々等、世代を超えて様々な人々が集う心温まる交流の場となりました。

高校生を対象とした外国語学部のオープンキャンパスも同時開催され、志望校として、外国語学部の歴史を知っていただくよい機会となりました。「来年はここで学生として会いたいね」という会話も聞かれる中、大正11年の大阪外国語学校の開学から母校100年の歩みを伝えるセピア色の写真や古い資料を食い入るようにつめる若者の姿が印象的でした。

今年も、特別企画「夏まに届け! チェキ100枚メッセージ」を実施。コロナ感染予防策の受付が設置されず、記念ホールでの展示・イベント企画は、外国語学部の先生方による「阪大ふくふくセンター」の広報ブースと咲耶会の展示のみ。入場者はあるのだろうかとの心配をよそに、今年もチェキ100枚は瞬く間に品切れとなりました。往年のチェキ流行期を知る世代には懐かしく、スマホ世代の若者にとっては、この超アナログ的なツールがかえって新鮮に思われたのでしょうか。ポラロイドカメラから画像が出て来るまでの「ワクワク感」を大いに楽しんでいる様子でした。

～新役員紹介～



青木伸也 (大TV28)

この度副会長を拝命致しました。『咲耶』31号にて駐サモア初代大使退職後の母校への思いを一意見として述べさせて頂きました。母校が総合大学の中で更なる発展を遂げ、同窓会も母校発展の支援を行い、プラスのスパイラルとなることを肝要と考えます。何卒、皆様のご支援を賜り、更に有益かつ魅力的な会となりますことを願います。



川村芳範 (大TV24)

自己紹介させていただきます。私は、昭和51年(1976年)大阪外国語大学タイ語科卒、川村芳範です。学生時代はギター部に所属していました。卒業後大塚製薬入社、1980年には同じ大塚グループのアース製薬に転籍しました。その年からタイ国に駐在、1997年に日本に帰国しました。現在も会社にて取締役、最上執行役員、海外管掌をしております。今回、咲耶会の幹事を拝命しまして、少しでも咲耶会の発展に貢献できれば母校への恩返しになるかなと思いました。皆様のご協力なくしては会の発展はありませんので、宜しくお願い申し上げます。



矢元貴美 (大PH50、院前東南ア8)

大阪外国語大学時代に学部と博士前期課程で学び、現在は講師として勤めております。現役学生に近いところにおりますので、在学生在が咲耶会に何を求めているか、咲耶会から在学生在に何を伝えられると良いかを考えながら、会の発展に少しでもお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



犬飼祐子 (大R29)

4月より事務局で会計を担当させていただいております。「卒業生だし、家近いし、どうかな?」と、外大硬式庭球部OB会ラ・ポーム倶楽部の鳥山先生に声をかけていただきました。私は、入学は上八校舎、卒業は間谷校舎という稀な世代です。その上、今また船場の新校舎に来られることになり不思議な気持ちです。勉強しなかったのが、咲耶会は敷居が高かったのですが、今は素敵の方々との新しい出会いにわくわくしています。至らない者ですが、よろしくお願いいたします。

第8回 咲耶出版大賞が決定しました

選考委員 藤原克美 (大R38 大阪大学人文学研究科外国語専攻教授)

2022年刊行の出版物を対象とする「第8回咲耶出版大賞」は、大賞に松田武氏(大E18)の『自発的隷従の日米関係史: 日米安保と戦後』(岩波書店)が、特別賞に生田美智子氏(大R17/院R4)の『満洲からシベリア抑留へ: 女性たちの日ソ戦争』(人文書院)が選ばれた。

今回は、学術書、小説、翻訳、実用書など多彩なジャンルの作品9点が寄せられた。



大賞となった『自発的隷従の日米関係史』は、日米関係を対等な関係とは程遠いものになっている原因を、「自発的隷従」というキ

ーワードによって説明している。例えば、「米軍の継続的な沖縄駐留」は米政府の「スマート・ヤンキー・トリック」によって、日本側から米国に対して願い出るように仕向けられたものである。同様の自発的隷従関係が、日米安保や沖縄返還等の背景にもあることが、両国の文化、思想、価値観の分析から解き明かされる。本書は比較的平易な文章で綴られているが、長年、日本の「半永久的対米依存」をアメリカの「ソフト・パワー」に着目して研究してきた著者ならではの説得力を持つ。また、「日本人の声を米国に発信する」という筆者の提言の一つが、本書の英語版の出版によって実践されていることも、選考委員の間では高く評価された。

特別賞の『満洲からシベリア抑留へ』は、女性のシベリア抑留研究に先鞭をつけた著者による渾身の著作である。膨大な抑留者の回想録や聞き取り調査に、それを裏付ける公式の文書を織り交ぜながら、女性たちのシベリア抑留の実態を丹念に跡付けている。

OSAKA SOGO DESIGN
あなたの可能性を広げる
ジブンデザイン
U 大阪総合デザイン専門学校

3 Fields

UEDA GAKUEN
学校法人 上田学園は、82年の歴史を持ち、ファッションやデザイン分野の第一線で活躍するクリエイターを輩出し続けています。
http://uedagakuen.ac.jp/
大R24 理事長 上田哲也

UEDA College of FASHION
上田女子服飾専門学校

令和4年度 決算報告 (令和4年7月1日～令和5年6月30日)

決算		(単位: 円)
収入	入会金収入	1,200,000
	年会費収入	4,617,000
	賛助金収入	2,502,832
	咲耶広告収入	326,000
	名簿及年史収入	63,800
	総会収入※	0
	雑収入	292,171
合計		9,001,803
支出	援助金	200,000
	事業費	430,007
	運営費	3,978,581
	咲耶作成費	2,600,510
	咲耶通信費	1,724,116
合計		8,933,214
収支差額		68,589

期首正味財産(前期より繰越)	37,034,857
期末正味財産(次期へ繰越)	37,103,446

※総会収入が0となっているのは、新型コロナウイルス感染防止のため懇親会を中止したことによる。

令和5年度 予算案 (令和5年7月1日～令和6年6月30日)

予算案		(単位: 円)
収入	入会金収入	2,000,000
	年会費収入	4,800,000
	賛助金収入	2,500,000
	咲耶広告収入	283,000
	名簿及年史収入	32,000
	総会収入	400,000
	雑収入	115,000
合計		10,130,000
支出	援助金	300,000
	事業費	1,080,000
	運営費	4,150,000
	咲耶作成費	2,800,000
	咲耶通信費	1,800,000
合計		10,130,000
収支差額		0

期首正味財産(前期より繰越)	37,103,446
期末正味財産(次期へ繰越)	37,103,446

フライト 1977-2022

外大軽音楽部 OBOG 久保田哲也
(大 IN35)

1977年の上本町から粟生間谷、そして2022年の箕面船場に至る、長いフライト。わたしたち外大軽音楽部 OBOG 有志は、多くの出会いといくつかの別れを経た2022年11月6日、それぞれが好きな音楽を持ち寄り、大阪(江坂)のライブハウスで楽しいひと時を過ごしました。舛谷隆直さん(大 P29)、豊田正宏さん(大 IP30)率いる「Delightful Sadness」は都会的ながらもこか郷愁を誘い、T.H.H(細井博史 大 TV35)は星になった友人への鎮魂歌を、平賀知子さん(大 IT39)は自らのユニットで个性化的な歌声を聞かせてくれ、筆者のバンドは自分たちなりのブルースロックを演奏しました。正式な OBOG 組織の存在しない外大軽音楽部においては、こうした SNS を通じた「ゆるやかな繋がり」を活かしたライブイベントを、年に一回のペースで無理なく続けています。

この号が出るころには今年のイベントの開催も近づいております。2023年11月5日江坂 TwinReverb にて、1963年生まれの仲間達の「還暦」を記念するライブイベントを開催いたします。詳細は、Twitter「大阪外国語大学軽音楽部卒業生掲示板 @OUFSLMC2020」で発信中です、OBOGのみなさんは是非フォローお願いいたします。そしてライブイベントに遊びにいらしてください、お待ちしております。



「七夕の再会」踊る。

S19 同窓会 夏原 稔
(大 S 19)

7月7日上六シェラトン都ホテル内の中国料理レストランにて S19 同窓会開催。

12年ぶりに同窓生 14名(内5名は東京や富山からの遠路組)に山田先生をお迎えしての七夕の宴は4時間経過も懐かしさのあまりお開きを知らず。御年96歳の先生も同窓生と勘違いされ「あなた誰?」と聞いた猛者も。

先生曰く「長寿の秘訣は若いころの自堕落生活にあり。今多少目がかすみ、耳も遠くなったが、これは生きてる証拠」。何という自虐的ウイット。後期高齢者の仲間入りした我々“若者”もこのようなユーモアセンスを見習いたいもの。

一人に与えられたスピーチの時間は2-3分。そのようなルールはわれ関せず、幹事特権とばかりに10分以上話し続ける迷幹事も。半世紀余り前の4年間という時間と学舎に近い上六界隈という場所、この時空を共有する我々の再会は甘くてほろ苦い思い出の再発掘とその真偽確認に真剣な議論が交わされました。何と当時の日記が動かぬ証拠だと。懐かしさのロマンチズムと今そこにある体調問題の話がないまぜになって、一人の女性が真剣につぶやきました。

「あの頃の18歳に戻りたい」と。どんな宴にも終わりは来ます。そして皆はそれぞれ“Hasta la vista”と再会を約してこの懐かしの上六をあとにしたのです。

発足5年、戦前外語社研研究会

成瀬龍夫
(大 C15)

約1世紀前に私たちの先輩が侵略戦争に反対し声を上げたために、治安維持法違反で検挙されたり、退学などの処分を受けたりしたことをご存じでしょうか。

治安維持法の犠牲になった諸先輩のことを調べ、名誉を回復するため、2019年1月、大阪外大の卒業生や研究者らで戦前大阪外語社研研究会(代表・成瀬龍夫元滋賀大学学長)をつくりました。社研(社会科学研究会)は1924年に発足しましたが、翌年に治安維持法が公布され、度重なる弾圧を受けました。

特高警察や文部省の資料などを調べ、遺族への聴き取りを通じ、犠牲者が76人に上ることが分かりました。年1回の総会と会報発行で、これらの調査結果を発表し、大学当局に対し、事実関係の確認を求める申し入れを行ってきました。



ZOOMも併用して行われた研究例会(2023年3月)

また社研にこだわらず、幅広く当時の大阪外語の様子を知るため、今年は3月に中国の留学生、宋新亜さんを招き研究例会「同時代の中国・中国語を学び教える闘いー1930、1940年代の大阪外国語学校の中国語教育を中心に」を開きました。東京外語などが漢語主体であったのに対し、大阪外語では生きた中国語を教えていたことが明らかにされました。また5月の総会では生田美智子名誉教授に「初代露語露人教師ネフスキー」の演題でご講演いただきました。開校と同時に大阪外語で教鞭をとり、宮古島やアイヌの言葉や民俗学的研究、西夏語の研究などで大きな足跡を残していることを学びました。

連絡先: gaigo.shaken@gmail.com

交流イベント「ウルドゥー語専攻の過去・現在・未来」

大内拓也
(大 U51)

2022年11月20日(日)、リアルとオンライン併用のハイブリッド形式で開催しました。落ち着きつつあるとは言え未だコロナ禍であること、また場所を問わず参加可能とした今回の形式を取りました。学生・卒業生・現任教員・退官された先生方で、出席者は66名(来場52名、ZOOM14名)と盛会でした。日本国内のみならず、ウルドゥー語の使用地域であるパキスタン・インドや海外からも参加がありました。

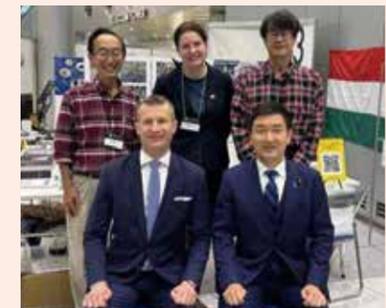
ウルドゥー語専攻のこれまでの歩みと将来への思いを、山根聡教授・北田信教授・宮本隆史講師、そしてゲストご参加の濱口恒夫名誉教授・松村耕光名誉教授の5名の対談を通して語っていただき、貴重な機会となりました。ナン・カレーやミターイー(スイーツ)を片手に参加者同士で話の輪が広がったり、画面越しに近況を語り合う場面もありました。会の最後には、パキスタンにお住まいのタバッスム・カシミリー先生からゲストのお二方宛てにメッセージ朗読の後、御礼の花束贈呈と共に、お二方の叙勲ご報告を致しました。

本イベントを開催した「大阪外国語大学記念ホール」は、前年2021年4月に移転したばかりの新箕面キャンパス内の施設です。(キャンパス移転の様子は、NHK「小さな世界」の大引越越し」としてTV放映され、ウルドゥー語のタイプライターや、研究室も紹介されました)このホールは、ハイブリッド学会にも対応した先進的な設備を備えており、今回の企画で大変お世話になりました。

ハンガリーとの縁

中島裕司
(大 DM24)

知り合いの咲耶会の大先輩から頼まれて、いやいや引きうけた関西ハンガリー交流協会の事務局長。最初の頃は、全くハンガリーには興味もなくて、ただやるべきことをこなしているような感じだったけど、今はハンガリー関係由来のことで大変充実した時間を過ごしている。現在取り組んでいる東京大学・関西大学の『ミュオグラフィ・アートプロジェクト』もまた東大とハンガリーがミュオグラフィを共同研究していることもあって、アートを通してミュオグラフィの啓発を目的に7年前に始まったが、順調に経過していて、今や世界のいろいろな国の大学研究とも繋がりつつある。そういうこともあり、ハンガリー大使館ともずいぶん懇意になり、ハンガリー語もやらないと、とは思うけれど、語族的にフィンランド語と同様に他のヨーロッパの言語とは異なっていて難しい。ハンガリーとは全く縁がなかったけど、今はハンガリー関係中心の生活になっ



てしまった。引き受けた当初、4、5名の集りだった関西ハンガリー交流協会も、懇親会等には一般参加含めて今や50名くらい集まって楽しい時間を過ごしている。

古典芸能案内人 II E 17
 文楽、落語、歌舞伎の面白さを伝えます。
天野光(本名・天野豊子)
 AMANO HIKARU
 文楽、落語、歌舞伎のセミナー依頼受付中。古典芸能案内人で検索!!!
 アメブロ: <https://ameblo.jp/koten-gainou-guide/> 古典芸能のススム: <https://artcoordinator.com/>
 e-mail: kotengeinou@nike.eonet.ne.jp フェイスブック: [amano.hikaru.2](https://www.facebook.com/amano.hikaru.2)

支部だより

東北支部

黒木一吉 (H E10)

「国内支部を渡り歩いた清水さん」清水記行さん(東京商工リサーチ、1990年イタリア語卒)は2014年、仙台に単身赴任した縁で地元新聞に掲載され、その着任記事を見つけた黒木支部長が連携を取り、東北支部総会に初めて出席。同年秋の支部総会には咲耶会本部の少徳会長、東京支部の樽井事務局長が駆け付け、地元宮城のほか、秋田、山形両県の同窓生とも交流しました。

四国高知から単身赴任した清水さんには東北の親戚や友人、知人は不在。しかし、支部での交流を通じて同窓生の皆さんと親しく懇談、5年間の東北勤務の中で同窓会活動に参加できたことは大変光栄だったと振り返っております。



秋田での出張支部懇談会(2019年3月)

仙台から東京に転勤し、2年間勤務しましたが、東京支部の月例会で講演する機会に恵まれ、居並ぶ大先輩を前に大変緊張したそうです。その後も月例会やビアパーティにも参加し、大変お世話になったと回想。さらに2年後は大阪勤務となり、新しい真面目なキャンパスでの大阪大学夏まつりにも参加した楽しい思い出も。

令和5年6月から家族のいる高知の勤務となりましたが、今後も高知支部の皆さんとの交流を楽しみにしております。思い出をたくさん作り、良い友人や同窓生との出会いは、豊かな人生に大いに彩りを与えてくれることでしょう!東北支部も今後、懇談会など企画しながら交流を深めたいと思います。

東京支部

前田征信 (大K16)



久保支部長が今年2月に急逝、何事にも前向き、積極的、早めの対応等強いリーダーシップで支部活動をリードしてきた支部長が任期6年(本年10月の総会まで)を前に自宅で倒れ、突然のお別れとなりました。

現役の支部長で支部活動にまことに貢献が大きかったこと、また、他大学の同窓会とも積極的に交流を重ね咲耶会東京支部の存在を大きく喧伝して頂いたこと等を考慮、3月に学士会館大阪大学室にて「久保さんを偲ぶ会」を挙行、遺影を前に遺族を含め関係者が故人との縁あるいはエピソード等を心行くまで語り合う機会となりました。にぎやかなことが好きだった故人に相応しい偲ぶ会となりました。

コロナ禍の日々が続き、人の移動が大幅に制限される中、支部活動の中心である講師を招いた学士会館での月例講演会を

ハイブリッド(対面とオンライン)方式にて実施、また、それらの講演内容1年分を「月例講演集」として製本にして会員に配布しております。OB & OGの講師の方々専門的活動を知る機会、励みとなり大変評判がよく今後も続けていきたい活動です。

3年間中止を余儀なくされたビアパーティーの実施を計画しています。会員の超高齢化が進む中、多くの若手が参加してくれる機会を提供することで咲耶会活動を楽しんでもらえればと例年の7月開催を8月に延期、コロナの進捗具合を見定めて今年はなんとか実施したいと考えています。

目に見える活動、参加して楽しい活動、持続的活動を支えて行くことが久保支部長の遺志でもあると信じております。

岐阜支部

丹羽宏造 (大IN7)

3年間中断していました、大阪外国語大学、大阪大学外国語学部「卒業生の集い咲耶会 岐阜支部の会合の再開」をご連絡します。

今回はゲストとしてデンマーク語1978年卒の八代竜也氏をお招きし「岐阜近郊の山歩き」と題して、お話して頂くようお願いしました。八代氏は母校の岐阜北高校で英語を教える傍ら岐阜近郊の山々を踏破され、その体験談を「奥美濃のヤブ山」「岐阜の山歩き55コース」他を出版された達人です。楽しいお話をご期待ください。

日時: 令和5年11月4日(土)
時間: 受付開始: 11時30分 会合開始: 正午12時
場所: JR岐阜駅 横 じゅうろくプラザ内
レストラン「ラ・ローゼ プロヴァンス」会費: 4,500円

名古屋支部

白岩 修 (大D19)

令和4年～令和5年度名古屋支部活動状況

新型コロナウイルス感染もようやく落ち着き、名古屋支部総会を6月10日(土)にホテル ルプラ王山で開催致しました。3年半振りの開催となりました。16名の方が出席されました。3年半振りに、皆様の元気なお顔を見ることが出来、感無量でした。西村貞夫氏(専S27、1951年卒)は今年96歳ですが、お元気な姿を見せて下さいました。

皆様にはまず、咲耶会「年会費」と「賛助金」の御礼を述べ、引き続き咲耶会の財政状況が非常に厳しく、持続可能な運営をするために、これからも「年会費」と「賛助金」のお支払いのお願いをしました。又、3年半振りであり、初めての出席者が2名おられたので、全員の自己紹介と近況報告をして頂きました。



本会ではゲストスピーカーとして土森道雄氏(大TV17、1969年卒、集合写真前列右から4人目)をお迎えし、「東西

交流の要の小国、Sri Lanka～債務の罠に沈み込む、2000有余年の歴史を持つ仏教国家～」と題し、大変興味深い講演をして頂き参加者一同大変感銘を受けました。

※来年の名古屋支部総会は令和6年6月8日(土)を予定しています。

当支部では恒例の昼食懇談会もコロナの影響で中止していましたが、コロナもかなり収束してきており、近く再開予定です。

名古屋支部では咲耶会本部並びに東京支部からいろいろ有意義な情報を頂いています。名古屋支部ではそれら情報を会員の皆様にメールでご連絡をしています。その為、メーリングリストの充実は不可欠なので、愛知県在住の方は是非、私宛にメールアドレスのご連絡を宜しくお願い致します。

又、現在三重支部はないので、三重県在住の方も私宛にメールアドレスを連絡して頂ければ、いろいろな情報をメールでお送り致します。

連絡先: 名古屋支部長 白岩 修
TEL & FAX: 052-806-7873 携帯: 090-4865-8172
E-mail: shiraiwa1123@yahoo.co.jp
以上宜しくお願い致します。

奈良支部

佐柄保夫 (大C26)



奈良支部は、天平倶楽部に、外大アラビア語講師をされた著名イスラム文学者の東大寺の森本公誠長老をお招きし、「生きる」というテーマで、人生は苦であるとしたブッダ最晩年の言葉「世界は美しい、人の生命は甘美なもの」を心に留めて残る生を全うしたいとの講話をしていただきました。自らの生い立ちと教授、学生ともマルクス主義者多数で「宗教は時代遅れ」とされた京大時代から振り返り、既に89歳のご高齢ながら、東大寺、正倉院に残る古文書から天平時代の奴婢達の記録を現代風に訳した「東大寺奴婢集団のサバイバル」を2年前に上梓されており、古代日本人が認識していた公文書の重要性が薄れることへの懸念を示されました。また、現在「新・善財童子求道の旅」を執筆中であるとのことご気力一同は感服の思いでした。

その後の懇親昼食会は、久しぶりに参加された会員の近況や、長い海外駐在生活での回顧談等で親交を深めました。8月は近鉄奈良駅前ホテル「花小路」で総会の予定です。

宮崎支部

近藤哲二 (H S10)

宮崎支部は毎年、同窓会を本部の総会の前後に開催しています。昨年の総会時に12名のLINEグループを作りました。現在、同窓会の連絡等有効に活用しています。

この会の特徴は、老若男女の幅広い世代が集いあうこと。2時間あまりですが、それぞれが近況を語り、また、それを聞くことにより、みなさんがそれぞれの立場で社会に貢献されているなと感じ、さあ、私も明日から頑張ろう。という気持ちを起こさせてくれるところにあるのではないかと感じています。

昨年の同窓会には、写真のとおり7名の参加がありました。初めて参加のメンバー(海野さん)もあり大変盛り上がりしました。今年も会報『咲耶』の「支部だより」をご覧になり新しい参加者が参加されることを期待しています。

今年はコロナも明けたことから一人でも多くの同窓生が参加されますよう、しっかり取り組んでまいります。



令和4年11月13日開催の同窓会出席者(7名)です。近藤哲二・笹原敬生・米田健一・宮田泰雄・川野道夫・海野大輔・木崎宣博(敬称略)

マニラ支部

久留須健一郎 (阪大PH9)

2023年1月、学部時代の留学以来5年ぶりにフィリピンに戻ってまいりました。到着早々、阪大待兼会・東京外語会との三大学合同新年会が開催され、東京外大で修士課程を終えた私はすべての同窓会に参加資格がある(!)とのことで、若輩者ながら自己紹介の大トリを飾らせていただきました。先輩方にあたたかく迎えていただき、素晴らしいフィリピン生活の幕開けとなりました。



さて、マニラ支部は活発な活動と結束の強さで評判とのこと。たしかに、私も半年のフィリピン生活で既に四回も咲耶会に参加しています。もちろん話題はフィリピンのあれこれ。日々の生活のことから外大・外語らしく言語・文化のことまで、咲耶会だからこそ共感できる話の数々に時間を忘れ、大いに盛り上がっています。私自身も、経験豊富な先輩方から様々なことを学ばせていただき、毎回楽しみで仕方がありません。コロナ規制もほぼ完全に撤廃されました。今後も、テンマイ会長、新幹事の阪さんを中心に、定期的に集まれるのを楽しみにしています。末筆ながら、長年マニラ支部を盛り上げてくださった鈴木さん、岡本さんがそれぞれご帰国なさいました。ありがとうございました。またお会いできる日を、マニラの熱気と共に心待ちにしています。

支部だより

北京支部

高橋咲代 (阪大 C5)

大家好 (皆さんこんにちは)！

中国では、昨年まで約3年にわたりゼロコロナ政策が取られ、PCR検査や健康コードのスク্যান、移動制限、隔離等が日常生活の一部となっていました。しかし2022年末にコロナが中国全土で大流行、そして2023年年初から各種制限が撤廃されました。その後急速にコロナ前の生活に戻ってき、昨年までの生活との大きなギャップを感じるのと同時に、目まぐるしい変化の早さを実感する日々でした。現在では日常生活はすっかり元通りです。ただ6月末の現時点では日中の観光往來が完全に回復しておらず、こちらも早期の回復が望まれるところです。



北京支部の活動については、中国国内の各種制限撤廃に伴い、懇親会も開催しやすくなり、今年に入ってから約3か月に1度、定期的に懇親会を開催することができています。毎回様々な中華料理を楽しみながら、仕事やプライベートの近況や、出張や旅行で訪れた中国各地の話などに花を咲かせています。昨年はなかなか集まりづらい状況であったこともあり、より一層、こうして海外において同窓の繋がりで年代を超えて集まり、交流できることの有難さを感じます。今後も引き続き開催してまいりますので、北京にご赴任の際には是非ご連絡ください。(連絡先 wechat ID：sakiyo333)

バンコク支部

阪本法子 (開発・環境大 47)

2022年下半年はコロナ禍もかなり落ち着き、3年ぶりに同窓会や東京外国語大学と合同でのクリスマスパーティーやゴルフコンペ外大戦なども復活させ、久々の会合で大いに盛り上がりしました。



年数回のお食事会やゴルフコンペも再開し、大阪大学や大阪外国語大学にゆかりのある方々を中心に、学部、国籍問わず、歓迎しております。外国語学部、基礎工学部、工学部、法学部、日本語日本文化教育センターなど様々な組織に在籍していた方々が参加して下さい、とても楽しい会合になっています。

また、メーリングリストでの同窓会情報の配信だけでなく、LINE グループで、バンコクの美味しい寿司屋や居酒屋、お得なディスカウント情報など、タイ生活で役立つ情報も会員同士で情報交換しております。

タイらしく、どなたでも気軽に楽しんでいただける雰囲気活動をおこなっておりますので、ご興味のある方は、osakagaidaikbkk@yahoo.co.jp にご連絡ください。

イスタンブル支部

片田 聡 (大 DM36)

2020年に設立された新しい支部です。駐在者が中心となっておりますので、メンバーの入れ替わりはありますが、現在8名が在籍しており、早慶の同窓会に次ぐ規模だと思います。現在は年2〜3回飲み会を開催しております。イスタンブルだけでなく、近隣に駐在される方などのご参加もお待ちしております。また、出張などでイスタンブルにお越しの際にはご連絡を頂ければと思います。



イタリア支部

田中佳代子 (大 IT38)

発足して間もないイタリア支部ですが、Zoomで交流の機会を持ちました。卒業後の皆さんの歩み、イタリア在住となったきっかけなど、話しているうちに意外な共通点が見つかったりする発見もありました。オンラインだけの交流ではなくて、どこかで全員集合するのが目標です。

イタリアにお住いの卒業生の皆様、是非ご連絡をお待ちしております。

||| 支部総会・イベントのご案内 |||

■令和5年 東京支部総会 *対面・オンラインのハイブリッド型
日 時/2023年10月14日(土) 13:00～
会 場/学士会館 203号室

■令和6年 東京支部新年会 *対面・オンラインのハイブリッド型
日 時/2024年1月14日(日) 12:00～15:00
会 場/学士会館 203号室
講 師/春名幹男・鈴木琢磨・安間英夫・阿古智子
参加費用/5,000円予定

■令和5年 岐阜支部総会
日 時/2023年11月4日(土) 受付開始:11時30分
会合開始:正午 12時
会 場/JR岐阜駅 横 じゅうろくプラザ内
レストラン「ラ・ローゼ プロヴァンス」
講 演/「岐阜近郊の山歩き」
講 師/八代竜也(大 DM26)
会 費/4,500円

短 信

総会出欠ハガキの短信欄からの転載です

福田玲三 (大 F21)
ご無沙汰しています。いま石川逸子著「三鷹事件無実の死刑囚竹内景助の詩と無念」を扱っています。頒価1000円(送料共)。希望者は当方にお知らせ下さい。

調子 肇 (IP26)
上八校舎は1945年の空襲で消滅、敗戦2年目の1947年私共は高槻市の旧陸軍工兵隊、兵舎跡を学舎、学生寮に転用された本校に入学。敗戦2年後の食糧難時代の学生食堂の献立は米粒の僅かな雑炊、団子汁が基本でした。寮生達は多分空腹を満たす事は出来なかった事と思っている。頑張った先輩・同輩達も殆んど他界、でも彼等の事は忘れる事は出来ない。

奥村義寛 (IP27)
満92才になり身体も弱ってきて居りますが、なんとか生き延びております。遠出の旅が出来なくなり淋しいです。

日台松子 (大 F1)
大学の弥栄を願っています。

吉田由也 (大 E2)
小生92才になりました。色々体調に問題はありますが、大病はありません。

岡本弘次 (大 D2)
90歳ですが、おかげさまで元気で歩行できております。

高輪 琢 (大 F2)
私92翁は母校の素晴らしい発展を見て、大変嬉しく思っております。大2(昭和29年卒)同期諸君、白寿まで頑張ろう!!

原 勇 (大 F2)
今年、“卒寿”をクリアしましたので、今後更に健康に留意しながら“白寿”達成に努めます。

松永和泰 (大 S2)
遂に卒寿になりましたが、体調不良が起きています。後は運まかせで生活しています。

林 治郎 (大 C4)
百才になりますが、まだ生きています。元気で体操をしています。

金澤輝彦 (大 E4)
現在91歳です。昨年(22)10月から近隣(高槻市内)の施設に入所して読書三昧の日々です。

富永邦夫 (大 C5)
91歳やや歩行困難、テレビに映る景観、名曲が我が友。いただいた豪華本風ノートに感じ入ったことをできるだけ丁寧に書きとめてゆくの毎日課になりました。夫婦共、食の買物は親切な方の代行で有難くも生かされています。『咲耶』は7冊、時にページを繰り言い知れぬ楽しみになっています。有難うございました。

増田栄三 (大 C5)
高槻の兵舎で学んだことがなつかしく徒に馬令を重ねるだけで、今は米寿も過ぎ窓外の景色を眺め乍ら座っている毎日。目の前が瀬田川で毎日若者達がボートを漕いでいます。

馬場弘行 (大 E5)
お酒が飲めない体質は長寿が保てることを証明したく、健康管理に留意しています。

首藤正登 (大 S5)
卒寿となりました。リタイア後帰郷し不動産業の真似事をして来ましたが、2021年末に施設に入所後は遠隔操業です。

中川 清 (大 S5)
「短信」で101才の方のお便り拝見。百歳を超えた先輩諸氏のインタビューの記事特集していただけかもしれませんが。当前、いまだ89才です。

金川弘美 (大 E6)
今は全ての仕事を卒業し、毎日読書・卓球・友人との会食を楽しんでいます。

清水重雄 (大 E6)
母校の創立記念日の11.11生れ。2022.11.11で88才になります。週2回は東京都心(1時間半位)へ出掛けています。ウォーキング等で体力の保持に努め、何と元気で。東京支部月例会には毎月出席し対面で講演を聞いています。

恒成喜久子 (大 F6)
2022年5月1日大阪府立国際会議場で開催された大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念式典・記念講演会にお招き頂き出席できたこと、とても嬉しく思っています。『咲耶』33号の特集、25専攻語のメッセージ「100年後の未来まで伝えよう言葉の力」興味深かったです。コロナ禍での編集作業の苦辛・ご尽力に敬服。感謝感激しています。母校創立100周年と箕面キャンパス誕生を祝して「特別記念総会」開催、心待ちにしています。咲耶会の益々の発展祈念しています。

吉田(片山)力俊 (大 S6)
認知症に片足を突っ込んでいます。

土橋(山田)泰子 (大 B7)
米寿目前、足腰に自信なくつれ合いの介助(つれあい脳梗塞発症のため)もあり、大阪も遠くなりました。でも一応内科的には健常、読書やエッセー書くのも好きです。

芳賀直美 (大 E7)
地元(枚方)にできた芸術文化総合センターへコンサートを聞きに行っています。年に2回程度でしょうか。大阪まで行かなくても向うが来るわけですから。

箱木真澄 (大 E7)
まだまだ遠距離旅行は避けたいと思っています。いずれそのうち総会に出席したいと思っています。

布施俊夫 (大 D7)
超高齢者になりましたが、まだ何とか無事に生きております。

酒井 斌 (大 F7)
この5月に1年遅れで開かれた阪大創立90周年、阪外大創立100周年記念式典では故石浜純太郎先生のお孫さんのお話や大 C16の河田氏のメッセージは印象的であった。今後ますます咲耶会会員の各方面での活躍が広く、大きく拡がっていくことを期待しています。

西田達雄 (大 IN8)
ASEANの語科定員増となりますが、大学では「ASEAN」を学ぶ講座等増やしていただきたい。また他学部との連携・活動をより活性化期待。

林 喜久雄 (大 IN8)
57才から75才にかけ大病を3回経験しましたが、早期発見治療で切り抜け現在82才で至って健康に過っております。

井上善二 (大 E8)
つつがなく過ごしています。

菊井忠雄 (大 E8)
毎日夕方2時間足らず、散歩をする。最近休み休みで歩いている。まわりの風景は四季に応じて変わるのが楽しい。咲く花も変化します。いつまで続くか、しばらく続けたいと思っている。

竹中 弘 (大 E8)
在学中、熱中したのは家庭教師のアルバイトと卓球ですが、今頃になってその卓球を仲間と“エンジョイ”しています。

屋敷 潔 (大 E8)
今年の夏、車椅子、転倒、入院、人工透析、カテーテル手術等、あっという間に、目前の目標が失せてしまいました。でも、「負けるもんがり」と、前を向いて歩き始めています。

和田 衛 (大 S8)
失われていた2年分の旧交を取返す事が2023年への期待です。

平岡 豊 (大 C9)
大阪大学外国語学部の将来像について同窓会としての発展的ビジョン構築をぜひに願っております。

谷 昌宏 (大 IP9)
2022.10 息子家族と一泊旅行(湯原温泉)のとき、「大阪大学人間科学部神庭の滝ニホンザル観察所」に出会い、新しい発見でした。貴学の益々の発展を祈念いたします。

原 秀雄 (大 S9)
元気にしています。同年の友人が亡くなったり、心細い面もあります。

田村俊介 (大 R9)
大好きな山登りもゴルフも足の調子が悪く、思う様にはゆきません。

故 山崎和士 (大 R9)
父は一昨年未亡くなりました。ロシア語の技術翻訳で身を立て、75歳まで働き、ひ孫の誕生を見届けて亡くなりました。外語大露語部で学んだことは本人の誇りだったと思います。貴校のますますの発展をお祈り申し上げます。(長女・高田圭子代筆)

西名孝雄 (大 IN10)
元気にしておりますが筋力の衰えにより歩行困難のため欠席します。(代)

峯本晴輝 (大 D10)
阪大と統合後の外国語部門の一層の発展を大いに期待しています。大学の最近の情報を楽しみにしています。

山口勝三 (大 S10)
商社マン卒業後17年間ひきこもり若者支援のNPO創立と発展に心血を注ぐも今年リタイア(82才)良き第2の人生でした。之も偏に仲間やサポーターのお蔭と深謝する毎日です。

青木俊一郎 (大 C11)
5作目の大作「蔭経国回想録」が時節柄が好評を得ています。

故 堀田 実 (2022.10.27 逝去)
(大 IN11)
先般、同期の仲間8名で箕面船場の新キャンパスを見学して来ました。咲耶会事務局のはからいで色々見せて頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

小笠原 肇 (大 S11)
59才から75才にかけ大病を3回経験しましたが、早期発見治療で切り抜け現在82才で至って健康に過っております。

杉野敏夫 (大 S11)
我が人生も愈々Home Stretchに入ったのか、ちょっとした山登り庭樹の剪定・整理作業にも今迄以上に疲れを感じる今日この頃です。

北条博彦 (大 S11)
83才、元気になっている。4年間テニス部で活動、現在もテニスを続けている。

野村幹雄 (大 IN12)
81才になりました。健康第一に毎日5千歩目標に歩いています。

高水忠春 (大 IP12)
コロナの関係で毎年参加の行事もキャンセル。孫達にも3年会えず。運動不足で老化が進み、楽しみはラインで友人との会話位の毎日です。

安東英明 (大 D12)
生活習慣病をかかえ医者通いしながら写真作品づくりを続け、毎日ブログ「Anchanの遊々フォト」更新を続け、写真ライフを楽しんでいます。URL:blog.goo.ne.jp/anchan_1491_1015

萩原準子 (大 S12)
目覚ましラジオをNHK②にセットして朝食準備中、独・西・仏・伊語を流し聞きしています。また、日本語とのつながりを知りたくて中国語やハンガル語もかじり始めました。世界のどこでどんな言葉が話されているのか、更に興味が広がりをうです。

竹下晃治 (大 C13)
会報の中の「短信」、「年会費支払者一覧」で知った名前を見つけて安心するのを毎年続けています。これが一年でも長く続くように!

橋本 勝 (大 M13)
去る10月13日箕面新キャンパスで大阪外大名誉教授会総会を3年振りに無事開催できました。11月26日開催の朝風会総会で同窓の皆さんと久しぶりにお会いできるのを楽しみにしております。日に40分程度散歩して健康維持に努めています。

宮田泰雄 (大 P13)
「朝聞道、夕死可矣」、この「道」に「知らないことを知る喜び」という新解釈を施せば、後期高齢者も日々退屈しない。終生学習者の元祖、孔子さまに倣って、いまこのマインドフルネスを実践している。

赤城一宇 (大 R13)
大阪外大グリーンクラブOB合唱団・東京で元気に歌っています。本年5月8日も築地の朝日ホールで歌いました。

鈴木安夫 (大 IN14)
新校舎見学できることを楽しみにしています。

須田悦生 (大 IP14)
去りゆく日々は愛おしきものです。

井上哲朗 (大 B14)
特定社労士として社会につながっています。咲耶会奈会では毎月土曜日午前10時から午後1時までは佐柄会長のもとでピアノを聞きながら勉強会とおしゃべりを楽しんでいます。

藪 司郎 (大 B15)
本の整理で出てきた『古事記』を文庫本の注釈書で読んでいます。上代日本語をながめながら、言語変化(言語史)の様相に思い馳せています。ビルマ語や日本語は、英語と比べて全体として変化がゆるやかなのかと思えました。

山尾 進 (大 P15)
79才ですが、お陰様で元気です。P語同期の皆さん、毎年の同期会を楽しみにしています。

吉田征子 (大 E15)
私を広い世界に連れ出してくれた外大の4年間は本当に有難いものだったんだと年月が経つにつれてしみじみと感じております。

三木達也 (大 D15)
一般社団法人ドイツワイン連合会の会長として5年目を迎え、国内におけるドイツワインの魅力を伝える活動をしています。Germanwine.jpでご覧頂けます。

森本勝幸 (大 S15)
山川支部会もコロナのため総会が開けていません。通信連絡を増やして再開の準備を待っています。

吉川昌宏 (大 D16)
年々旧友の名が減っていくのを寂しく思っております。咲耶会への連絡だけでもとってほしいものです。

短 信

中嶋祥代（II E19）皆様のご活躍をたのしく拝見しております。

田坂雅弘（II F19）この3年間はコロナ禍で仕事も厳しい状況ですが、香港を拠点に頑張っています。

荒川貴佳子（II S19）まだまだ現役のつもりで、語学修得に力を入れております。生涯現役！

石田まゆみ（II E23）大阪府の支援学校に勤めています。現在、社会人大学院生で、障害教育についての学びを深めています。「退職」のゴールテープが見えてきましたが生涯学び続けたいと奮闘しています。

西田幸志（II F25）元気にやっています。

六角みよ子（II S25）阪大夏まつりに箕面市の団体（箕面市ハット市友好クラブ）として参加しました。大盛況の夏まつりでした。

当野能之先生を偲んで

大阪大学人文学研究科外国学専攻 教授 **古谷大輔**

本学人文学研究科准教授の当野能之先生が令和5年3月21日に享年 49 歳の若さで急逝されました。当野先生は大阪外国語大学の卒業後、神戸大学大学院やユースペリオ大学で研鑽を積まれました。先生は言語学の理論的枠組である語彙機能文法をスウェーデン語の観点から研究され、スウェーデン語の個性を言語学の普遍的な観点から論じられる不世出の研究者でした。先生は自らの研究成果を語学教育に還元すべく、関西看護医療大学や本学で英語やスウェーデン語の教鞭を執られました。外大の卒業生として学生視点に立った指導へは信頼も厚く、スウェーデンと日本の学生が学び合うタンデム教育など、両国を架橋する教育の扉も開いてくれました。当野先生がスウェーデン語教育の現場で永遠の命を得られるよう、私たちは先生の思いを未来へ引き継ぐことを誓うとともに、ご冥福を心から祈りたいと思います。

堀川智也先生の思い出

並川嘉文（院前日本 7）

日本語専攻の堀川智也教授は 2017 年 7 月 3 日ゼミの帰りのバス車内での脳出血発作以来、入院療養生活を送っていましたが 2022 年 10 月 22 日豊中市坂本病院分院で誤嚥性肺炎のため亡くなりました。満 61 歳でした。

堀川先生と言えば日本語教育機関を訪ねる堀川ツアーです。陸路国境越え、寝台列車、ホームステイ、そしてオペラ（欧州）。パスポート紛失、国境ゲート閉門、飛行機乗り遅れ、食中毒、様々なトラブルを越えてきました。シリア、ウクライナ、ベナン、ブータン、トルクメニスタンいずれも思い出深いです。

「ワクワクすることをしろ」と言う先生でした。『日本語の「主 題 』』出版記念パーティーで開けてくださった 97 年のロマネコンティの香りは忘れられません。

物故者

令和4年7月から令和5年6月までに連絡いただき、確認がとれた方々のお名前を掲載いたしました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

語 科	氏 名	語 科	氏 名
名誉教授	岡崎正孝	E 26	荒川 隆
名誉教授	大野 徹	E 21	荒川忠雄
名誉教授	間瀬英夫	E 22	橋本勝弥
名誉教授	舟坂 晃	E 3	岩崎英夫
名誉教授	森 茂男	E 8	増田晃一
名誉教授	堀川智也	E 8	村松 孟
現教員	當野能之	E 9	谷口成彦
C 19	中井幸四郎	E 10	細川隆義
C 25	竹川(木村)昭三	E 12	浅井正博
C 25	山本 峻	E 12	阪本隆継
C 26	石川兵五郎	E 13	中村貞夫
大C1	国光俊次	E 13	西村幹良
大C4	加百藏夫	E 15	山口(鳥居)邦子
大C4	青山(森内)音信	E 17	毛利良一
大C6	大場(池上)雅子	E 19	小田(山本)園子
大C6	山本義幸	D 26	館 博通
大C7	坂出祥伸	D 10	清水大三
大C8	山本勝司	D 10	小倉正宏
大C10	酒井宗和	D 14	正橋眞一
大C10	坂田圭史	D 17	高岡 薫
大C11	加藤伸二	大DM20	藤嶋照夫
大C11	林 佳次郎	大DM25	中野 均
大C12	田端誠史	F 23	小横清嗣
大C14	八十島郁男	F 1	三木雄次
大C21	能宗和利	F 4	中村慶輔
大C41	春原千恵子	F 4	堀 重和
大K27	石塚直人	F 7	小川丈治
M12	長谷部良一	F 13	小山泰克
M12	森 健	F 16	朝妻(乾)和子
M17	杉本(玉井)勝	F 18	山田(松本)祥子
M19	武藤(木村)健三	F 21	佐藤健次
M22	秋山吉之助	大I T17	峯島(高垣)淑子
M23	佐藤昭二	S 19	中山重吉
M27	保川進治郎	S 2	西森章隆
大M11	川嶋敏夫	S 9	丸林 眸
大M16	庄垣正弘	S 10	数中 晁
大M24	清家輝文	S 11	福田忠紀
I N24	遠藤邦介	S 12	軽部 孝
大I N1	大久保雄平	S 14	久保(吉川)義昭
大I N1	田中恒雄	R 20	間避春夫
大I N10	野瀬芳宏	R 27	青野雄己
大I N11	堀田 実	R 27	伊藤彰一
大I N13	永田 悠	R 6	深野礼邇
I P26	浜中 部	R 9	吉賀敏郎
I P26	山本 稔	R 10	山崎和土
大I P1	山本正明	R 12	北井 勝
大I P4	吉田泰国	R 22	下原(鳥越)順子
大I P5	高畑 滉	C 49	大城裕二
大I P6	山田(家次)透	大S H47	飯島佳子
大I P8	友金 守	大S 48	中村 健
大I P9	金子義和	S 6	藤本吉宗
大I P10	浜渦哲雄	E 10	市川博道
大I P13	北宮康史	II E11	三条成泰
大T V6	上東輝夫	II R24	辻 まゆみ
大A8	竹内良知	言語夜33	稲井 敬
大P14	黒野誠一	夜C38	井上郁敏
E 16	藤本眞一郎	院S16	田澤 耕

藤家洋昭先生を偲んで

亀田千晶（阪大 TR5）

トルコ語専攻の准教授で言語学分野がご専門であった藤家洋昭先生が7月、亡くなりました。一見寡黙な印象の藤家先生ですが本当に優しい方で、学生のことを一人一人よく見ていらっしゃり、授業外でお会いした際にも気さくに声を掛けてくださいました。ハロウィンの日、私達が被り物をして授業に出ると、静かに笑いながらツッコミをくださったことをよく覚えています。海外出張の際に頂いたお土産は、今も大事に飾っています。ゼミ生に対するご指導も熱心で、先行研究の無い分野での卒論を希望した私にも、終始温かいご助言をくださいました。また先生の研究室を訪ねたいと思っていた矢先の訃報に戸惑いを隠せません。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

C 18 松倉(井澤)俊之
C 19 中井幸四郎
C 25 中井康夫
C 27 春日乙次
大C2 山根矩昭
大C3 下神洋造
大C3 中井 隆
大C3 松浦慶治
大C4 青木明生
大C4 園田成起
大C5 富永(磯部)邦夫
大C5 増田栄三
大C5 村上利雄
大C6 野口亮造
大C7 待場(一瀬)裕子
大C7 難波(高瀬)洋子
大C7 長谷川富雄
大C8 柁山次雄
大C8 下司 上
大C8 西勝幾雄
大C8 中空善彦
大C8 山田敬三
大C9 片本善清
大C9 久保 宏
大C9 平岡 豊
大C10 石田敏夫
大C11 青木俊一郎
大C11 村岡 穆
大C12 上垣邦夫
大C12 大川 均
大C12 前田(尾形)潤子
大C12 片桐淳一
大C12 齋藤彰一
大C12 高松昌弘
大C12 玉山(西田)順彦
大C12 藤田 真
大C12 南 賢
大C13 喜田 修
大C13 倉西 修
大C13 丸尾 馨
大C13 坂野勝彦
大C13 住山 毅
大C13 竹下晃治
大C13 丹羽邦夫
大C13 松井正雄
大C13 酒井(村上)晴子
大C14 吉田茂彦
大C15 吉村(池田)澄代
大C15 森本(石川)美佐子
大C15 伊藤彰一
大C15 岩本洋之
大C15 守屋 求
大C15 若林道朗
大C16 深谷裕康
大C16 紅谷有二
大C16 若菜大樹
大C17 西脇義彦
大C17 野口忠夫
大C17 福島重忠
大C17 山本恒人
大C18 井上尚弘
大C19 白木 通
大C19 春名 肇
大C19 松野賢二
大C20 荻田俊雄
大C20 茅田泰三
大C20 小林和能
大C20 重松孝司
大C20 嶋原信治
大C20 辻野六郎
大C20 服部健治
大C21 巽(小林)良生
大C21 槻野喜代志
大C22 呂(王)英成
大C22 北畑(山本)千晶
大C23 朝倉潤真
大C23 川口 洋
大C23 村田(吉田)隆禪
大C24 小野善史
大C24 岡田(塩野)光子
大C24 福富奈津子
大C25 笠井孝之
大C25 酒井克政
大C26 井上俊治
大C26 佐柄保夫
大C26 佐藤唯文
大C26 杉田欣二
大C26 井上(松林)由喜子
大C27 繁本孝一
大C28 井上俊二
大C28 村本幸久
大C29 古場文博
大C29 平松康弘
大C31 岩崎 誠
大C31 角岡賢一
大C31 井上(高橋)順子
大C31 前野(幸田口)初音
大C32 岸本あかね
大C33 岩井浩二
大C33 杉尾広志
大C33 深尾葉子

大C33 水谷秀文
大C34 赤松秀樹
大C34 市浦計宏
大C34 山田(大林)洋子
大C34 加藤義明
大C34 竹中俊穂
大C34 橋本淳一
大C34 森下圭造
大C35 二河(井上)ゆかり
大C35 満原(上野)逸子
大C35 西邑一美
大C35 多門美穂
大C35 長谷一美
大C35 森脇重光
大C36 石光 猛
大C36 熊谷(小野)晃子
大C36 加藤敬介
大C37 佐藤(大野)みのり
大C37 河本尚枝
大C37 濱田久美
大C38 今田慈男
大C38 中村 肇
大C38 南(橋詰)昌恵
大C38 中村(細川)智代
大C39 池山良太郎
大C39 藤原(櫻本)季美
大C39 棚田(原田)由紀子
大C40 島村(河野)多鶴子
大C40 三村章子
大C41 大坪敦司
大C41 関 弘司
大C42 奥村(河合)淑恵
大C46 後藤(高島)悦子
大K16 前田征信
大K17 瀬古邦子
大K18 横西慶宗
大K19 王 寛一
大K19 渡佐場 清
大K21 畑山康幸
大K23 芦田 進
大K24 三村浩一
大K25 渡部宏文
大K27 竹鼻 毅
大K27 松本 哲
大K29 上田景男
大K30 青野正明
大K30 植村 茂
大K31 向頭達夫
大K33 栗生(勝本)昇
大K33 舟橋宏代
大K34 西澤俊幸
大K35 石走(佐々木)裕子
大K38 崎山 誠
大K40 山根泰延
大K41 徳丸明子
大K43 成瀬(乾)由香
大K43 梶原貴志
大M11 小貫(野間)千鶴子
大M11 平尾貞三
大M11 橋本 勝
大M13 吉田隆観
大M15 藤田 忠
大M15 山田(森下)宏子
大M16 井村 正
大M16 三村(正田)サカエ
大M17 東村孝郎
大M18 戸川 浩
大M21 阿部博司
大M21 吉本幸吉
大M22 井上清昭
大M22 大和謙一
大M22 吉野博夫
大M28 伊藤道彦
大M29 岩崎 勝
大M29 鈴木麻里子
大M31 奥田麻美子
大M31 田中信一
大M32 保川一治
大M33 塩谷茂樹
大M34 中河文男
大M35 大崎 恵
大M37 川岡美智恵
大M41 小林悠子
大M41 石井(高田)慎子
大M42 下社 学
I N24 山口一史
I N25 石川欣也
I N3 石井義人
I N4 島崎忠彦
I N4 柳谷昌博
I N5 田端禎二
I N5 西(塚口)俊彦
I N5 吉村英男
I N6 磯浦(小直)美恵子
I N6 寺嶋修平
I N6 山口 寛
I N7 小黒 一
I N7 丹羽宏造
I N7 吉田 稔

大I N8 喜多山寛爾
大I N8 西田達雄
大I N8 林 喜久雄
大I N9 日黒孝敏
大I N10 石川雄二
大I N10 才木友昭
大I N10 高野郁男
大I N10 松木 優
大I N11 大田中 実
大I N11 小原一浩
大I N11 中川昌衛
大I N11 堀田 実
大I N11 前田比佐夫
大I N12 澤井佳一
大I N12 瀬戸宏康
大I N12 苗村和男
大I N13 有井 晟
大I N13 宮崎衛夫
大I N13 森岡義典
大I N13 横田義明
大I N14 野田幸孝
大I N14 井上(宮下)久生
大I N15 朝倉俊雄
大I N15 和田 肇
大I N16 広瀬(山田)加代子
大I N17 西川欣二
大I N17 本田正伸
大I N18 柳沢長四郎
大I N19 野崎淳一
大I N19 山崎 訓
大I N21 荒川啓司
大I N21 小田敏治
大I N21 三好勝春
大I N21 米田洋一
大I N22 矢田(友次)初恵
大I N23 辻本雅洋
大I N23 丹羽慎吾
大I N23 勝原(藤沢)紀美代
大I N24 廣澤義幸
大I N25 林田(岡田)典子
大I N26 中村由実
大I N26 江川(平井)典子
大I N27 安藤律男
大I N27 須田(坂元)和
大I N28 片山信英
大I N28 松下(西村)雅子
大I N29 野正一
大I N29 道幸静児
大I N30 北野 忍
大I N32 金井 篤
大I N32 鶴田譲治
大I N35 高岡幸夫
大I N35 高岡容子
大I N37 篠崎裕二
大I N38 崎地一夫
大I N38 田中千晶
大I N38 田中美佐子
大I N39 山崎(田中)美穂
大I N40 金子敦子
大I N40 下平英輝
大I N41 土屋裕美子
大I N42 竹前(小林)望美
大I N42 岡田(森)真理
大I N42 堅田強司
大I N43 山竹(岡)英子
大I N43 清水(小川)いずみ
大I N44 藤原(田中)佳織
大I N44 山田(橋本)宏子
大I N45 武田(平松)祐子
I P26 調子 肇
I P26 中島宏二
I P27 奥村義寛
大I P3 小林高藏
大I P5 谷本幸夫
大I P6 中川博行
大I P8 藤本清志
大I P8 増田次郎
大I P9 谷 昌宏
大I P10 大西章文
大I P10 大根瑞穂
大I P10 高 康治
大I P10 濱口(東岡)恒夫
大I P11 大湊幹郎
大I P11 澤田眞一
大I P11 山川洋一
大I P12 高水忠春
大I P13 奥平龍二
大I P13 中村佳久
大I P13 日比敏夫
大I P13 平野 宏
大I P13 溝上富夫
大I P14 池田(伊藤)正夫
大I P14 坂口捷男
大I P15 佐藤哲雄
大I P15 竹内俊一
大I P15 別所宏昭
大I P16 稲岡俊一
大I P17 家城義男
大I P17 戸倉光明

大I P17 山脇弘栄
大I P18 宮崎(奥村)真知子
大I P20 横山節夫
大I P22 井上保教
大I P22 小野俊一
大I P23 岡本(増田)美和子
大I P25 笹山喜市
大I P26 瀧野真咲
大I P26 中村隆雄
大I P27 白水和憲
大I P27 神野(杉野)弘美
大I P28 神田(饗庭)良江
大I P28 片山 眞
大I P28 下野俊朗
大I P28 竹村(鈴木)康子
大I P28 新井(沼井)君子
大I P29 永谷 勉
大I P30 川上 薫
大I P30 ロビンソン(児玉)エデラ
大I P30 木本(鈴木)絹子
大I P30 中道淳一
大I P30 圓山 望
大I P31 豊田(小田)美津子
大I P31 竹内(佐々木)厚子
大I P31 三木雄一郎
大I P32 関尾(敷内)昌美
大I P34 桑林浩治
大I P34 辻 裕紀夫
大I P34 中江加津彦
大I P36 青山(久保)聡子
大I P37 大石(橋本)なつ美
大I P38 佐々木雅彦
大I P38 上床真弓
大I P38 高尾 誠
大I P38 山中(辻)博弥
大I P38 高尾(藤林)節子
大I P39 中村(門崎)康子
大I P39 岩永(村木)利多
大I P40 前田健二
大I P41 波村昌也
大I P42 池田(伊藤)由佳
大I P42 石川(神吉)浩子
大I P43 今井久美子
大I P44 山本(植野)幸代
大I V11 北村道郎
大I V11 西沢毅彦
大I V15 赤木 攻
大I V15 請田裕史
大I V15 水淵美智也
大I V17 土森道雄
大I V17 藪 庄治郎
大I V18 田口 進
大I V19 児玉伸之祐
大I V20 山崎(安岡)明子
大I V21 半田康彦
大I V22 西村朋也
大I V28 徳村俊一
大I V29 川村優理
大I V29 大木 守
大I V30 磯部英美
大I V30 田中美穂子
大I V31 山中博貴
大I V33 田島啓行
大I V33 村岡貴子
大I V33 山井伴行
大I V34 長田義行
大I V35 早川(坂井)秀子
大I V36 寺田(本多)美貴子
大I V36 川村隆一郎
大I V37 吉田(高城)珠江
大I V37 本田(高木)広美
大I V39 福本雅信
大I V40 中本(竹内)恵
大I V42 田淵(秋田)早月
大I V42 佐藤智子
大I V44 岡松由理香

大B36 本田頼子
大B37 藤倉麻美
大B38 倉本和寛
大B38 野口千恵
大B40 秋山達也
大B40 前川(坂口)正子
大B40 植草(竹村)美香
大B43 岩崎洋一
A 25 今井辰行
A 8 河野利一
A 10 森野欣一
A 12 丸丸則男
A 13 軸東 泰
A 14 加藤 勇
A 15 塩尻 宏
A 15 塩尻(中村)和子
A 15 吉崎史明
A 17 坂本(太田)雅子
A 17 小林良三
A 19 高階美行
A 20 石田(大西)明子
A 21 古角末廣
A 21 野中正晴
A 27 久保田法順
A 27 下脇一朗
A 27 野口勝久
A 27 山森雅弘
A 28 後藤(木村)泉
A 28 横原 浩
A 28 横山博史
A 29 田中(山崎)久美子
A 32 安部寛之
A 32 LEROUX(後藤)尚美
A 32 森 裕賢
A 33 工藤(光井)律子
A 33 安井弘之
A 34 川口(一番ヶ瀬)洋子
A 34 小森淳子
A 35 島田郁子
A 36 加藤康也
A 37 野間(櫻本)了子
A 37 田中喜博
A 38 汐田直美
A 39 豊田文枝
A 40 長谷川(山本)厚子
A 41 廣瀬(野田)純子
A 42 田中(田中)久美
A 43 菅野 好
A 44 前川(今元)裕美子
A 13 宮田泰雄
A 14 岸川 登
A 15 春木孝宣
A 15 山尾 進
A 16 香川英明
A 18 半田康彦
A 20 長塚 匠
A 22 泉 四郎
A 23 田伏辰夫
A 24 遠藤比登志
A 25 日比 隆
A 26 菅原武文
A 28 宮村(加藤)洋
A 33 野垣(清松)和美
A 36 宮城(坂本)展子
A 41 毛利仁美
A 41 山 静
A 42 高橋(貞利)厚江
A 43 佐藤慶一
E 26 金井 清
E 26 由井 正雄
大E1 井尻益次郎
大E1 東條(太田)喜代子
大E1 笹井常三
大E1 正保富三
大E1 玉城勝也
大E2 釜谷研造
大E4 岩崎安雄
大E4 内山正克
大E4 大井浩二
大E4 金澤輝彦
大E4 中道仁一郎
大E4 堀江幸夫
大E5 大久保孝博
大E5 馬場弘行
大E6 秋山(宇多)弘雄
大E6 清水重雄
大E6 田淵弘通
大E6 六藤隆夫
大E7 青木利夫
大E7 井口 毅
大E7 伊藤豹一郎
大E7 岩崎嘉蔵
大E7 河盛龍三
大E7 芳賀直美
大E7 箱木眞澄
大E7 東 明宏
大E7 藤田欣吾
大E8 浅野 弘
大E8 石井純一
大E8 菊井忠雄
大E8 小西平太郎

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

年会費のお支払い、賛助金のご寄付ありがとうございました。 ※ は年会費と賛助金の両方を納入いただいた方です。ご協力ありがとうございました。

Table with 2 columns: Member ID (e.g., 大E8) and Name (e.g., 清水正治). Lists members from 大E8 to 大E29.

Table with 2 columns: Member ID (e.g., 大E29) and Name (e.g., 奥村弘史). Lists members from 大E29 to 大D31.

Table with 2 columns: Member ID (e.g., 大D31) and Name (e.g., 中西雅代). Lists members from 大D31 to 大S15.

Table with 2 columns: Member ID (e.g., 大S15) and Name (e.g., 森本(宮崎)勝幸). Lists members from 大S15 to 比較大45.

Table with 2 columns: Member ID (e.g., 比較大45) and Name (e.g., 吉田(北川)理恵). Lists members from 比較大45 to 阪大S4.

Table with 2 columns: Member ID (e.g., 阪大S4) and Name (e.g., 立川早織). Lists members from 阪大S4 to IIF27.

咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表

本部	会長	連絡先	E-mail or TEL/FAX
	大内 一(大S28/院S13)	事務局 〒562-8678 箕面市船場東3-5-10 大阪大学 箕面キャンパス 外国語研究講義棟1F	TEL&FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支部	支部長名		
北海道	笹山喜市(大IP25)	〒003-0029 札幌市白石区平和通9丁目北1番29号	sasayama@sapporo.email.ne.jp
東北	黒木一吉(E10)	高橋啓介(大PH52) 〒982-0821 仙台市太白区松が丘15-7	cb250Keisuke@yahoo.co.jp
東京	前田 征信(大K16)代行	樽井一仁(大R23) 〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603	taru2742@yahoo.co.jp
長野	山西敏博(院後言社8)	〒386-0034 長野県上田市中之条371-7-202	ezm11541@nifty.ne.jp
名古屋	白岩 修(大D19)	〒465-0066 名古屋市中東区梅森坂西1-801-107	shiraiwa1123@yahoo.co.jp
岐阜		丹羽宏造(大IN7) 〒508-0101 岐阜県中津川市苗木4827-48	k.niwa@ena-gf.jp
石川	楠根重和(院D7)	〒920-0813 石川県金沢市御所町1-373	forelle2003@yahoo.co.jp
福井	山下裕己(大S23)	〒915-1232 越前市二階堂町18-8	h.yamashita@fukuishimbun.co.jp
京都	宮川徳三(大S16)	西尾 齊(大E11) 〒606-8404 京都市左京区浄土寺下南田町70	dkals108@kyoto.zaq.ne.jp
奈良	佐柄保夫(大C26)	〒631-0804 奈良市神功1-4-125	sagara07@hera.eonet.ne.jp
大阪	金村義夫(II E10)	〒540-0021 大阪市中央区大手通3-3-3 日宝東本町ビルBF101号	ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神戸		大江昌子(大B43) 〒650-0004 神戸市中央区中山手通2-4-15-402 株式会社マーレ	mare@skyblue.ocn.ne.jp
播但	釜谷研造(大E2)	〒675-0038 加古川市加古川町木村140-8	FAX (079)424-7777
丹波	岸田 功(大IN15)	〒669-3309 丹波市柏原町柏原47	rskq59484@zeus.eonet.ne.jp
香川	大西 晏(R25)	森本勝幸(大S15) 〒760-0080 高松市木太町九区843-1	morimoto.kren@docomo.ne.jp
徳島		小田敏治(大IN21) 〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34	tom_oda@emn.ne.jp
愛媛	垣生千春(大IP40)	〒799-2460 愛媛県松山市苞木甲119-8	hazar-bahar.julai-25@ezweb.ne.jp
高知		周藤健史(大S30) 〒780-0024 高知市前里335-7	tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡山	草野 徹(大DM23)	〒701-1221 岡山市北区芳賀5112-98	akirakusan0319@i.softbank.jp
広島		山岡 哲(大IT20) 〒733-0814 広島市西区己斐西町19-37	sakuya.hiro555@gmail.com
鳥取	小原越史(中北欧夜E30)	〒683-0802 鳥取県米子市東福原5-8-26-202	a2coh@yahoo.co.jp
島根	勝部由紀夫(大D33)	〒693-0101 島根県出雲市上島町1363	yukiokatsube@icloud.com
福岡	吾郷健二(大S10)	中尾史子(大IN27) 〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501	nfumi3191@gmail.com
熊本	かじえいせい(大S21)	〒861-2405 熊本県阿蘇郡西原村宮山1547-1	dreamincountry@gmail.com
宮崎	近藤哲二(II S10)	〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄1720-2	tekondo64@gmail.com
沖縄	金城徹男(II D5)	鈴木正士(大S36) 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 琉球大学法文学部国際言語文化学科	msuzuki@grs.u-ryukyuu.ac.jp
北京	中嶋清治(大C21)		
上海	渡邊 洋(大C29)	高橋咲代(阪大C5) 伏村和展(大C59) 北京市(以下略)	sakiyo12321@yahoo.co.jp sh_oufs@yahoo.co.jp
香港	太田明雄(大IT26)	小林敏子(東アジア大C57) Flat 9B, Chuen Fat Building, 9 Valley Road, Ho Man Tin, Kowloon, Hong Kong	4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一(大K35)	Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OnelFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea	kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	坂口広之(大IN36)	高岡容子(大IN35) Bandung, Indonesia (以下略) Jakarta, Indonesia (以下略)	darwin0708@gmail.com ytakaoka@cbn.net.id
マニラ	テンマタイ都喜代(大E25)	# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720	tsukiyotenmatay@gmail.com
バンコク	川村芳範(大TV24)	阪本法子(開発・環境大47) Ms. Noriko Sakamoto800/940 Ashton Chula-Silom, Rama IV Road, Si Phraya, Bangrak, Bangkok 10500, Thailand	kawamura-yoshinori@earth-chem.co.jp osakagaidai@bkk@yahoo.co.jp
ハノイ外語会	野中亮二(中北欧夜E42)	r-nonaka@ngkntk-vn.com	
ヤンゴン外語会	近藤貴政(大A58)	bravo3aleek@yahoo.com	
ニューヨーク		石田佳子(大D29) 230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA	hime.yoshikoishida@gmail.com
ロサンゼルス	望月一郎(大E25)	951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA	ichimochizuki@yahoo.co.jp
サンパウロ	草薙綾子(中南米大PB48)	西川ノーマン裕子(大TV36) 4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA	hirokonamann@gmail.com
ロンドン		Alameda Santos, 705-cj. 17-Cerq. Cesar Sao Paulo-SP-Brasil-01419-902	wec@wecbrazil.com
デュッセルドルフ	片岡 惇(大S4)	小玉亜衣(大D52) Grenzstr. 33 40670 Meerbusch Germany	
パリ	松本隆男(大F4)	c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delabordere 92200 Neuilly / Seine France	t.matsumoto@skyblue.fr
イタリア		田中佳代子(大IT38) Montefiascone VT Italy (以下略)	kyktnk2022@gmail.com
モスクワ	岩本 茂(大R18)	〒169-0051 東京都新宿区西早稲田(以下略)	iwamoto@jtools.biz
イスタンブール	片田 聡(大DM36)		satoshi.katada@molgroup.com



株式会社 サラト

TEL 0120-953-070
受付時間 月～金 9:30～12:00 / 13:00～17:00

同窓会幹事代行承ります。



※(株)サラトは同窓会の名簿管理会社です。

令和5年度 咲耶会役員名簿

名誉会長	竹村景子	院 A22	幹事	白岩 修	大 D19	幹事	矢元貴美	院前東南ア8
会長	大内 一	院 S13	〃	三次召尚	II C5	〃	菊池信孝	開発大 57
副会長	井上泰子	大 E15	〃	西村朋也	大 TV22	〃	福山泰海	大 H59
〃	小林正受	大 E16	〃	石野伸子	大 D22	〃	後藤 峻	南欧夜 F42
〃	荒木和夫	大 DM18	〃	川村芳範	大 TV24	大学役員	岸田文隆	院 K15
〃	樽井一仁	大 R23	〃	笹原敏生	大 IN27	〃	村上忠良	大 TV36
〃	青木伸也	大 TV28	〃	大森久美子	大 DM36	会計監査	岡本晶子	大 S29
幹事	西尾 齊	大 E11	〃	上原順一	院 R22	〃	野垣和美	大 P33
〃	藤本和貴夫	大 R12	〃	福田義昭	院後言語 1	相談役	少徳敬雄	大 E11
〃	前田征信	大 K16	〃	大江昌子	大 B43	〃	大水 勇	大 C15
〃	深川泰博	大 E16	〃	並川嘉文	院前日本 7			

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子 / 委員 上原順一・並川嘉文・矢元貴美 / 事務局 天野豊子・犬飼祐子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。

- 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。
 - 会員のデータ管理
 - 総会・同窓会活動各種案内
 - 会報『咲耶』の送付
 - 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
 - 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
 - その他会則に基づく活動
- 自己情報の提供は任意です。
- 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。
- 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。
- 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

編集後記 『咲耶』34号をお届けします。キャンパス移転に際し資料の整理が必要となり、「大阪外国語大学 70 年史」を希望者に贈呈することに。約 300 名の申し込みがありました。1921 年の創立から始まり、膨大な資料を基に編纂された年史の刊行会に、司馬遼太郎の本名、福田定一の名があります。奇しくも、2023 年は司馬遼太郎生誕 100 周年の年。この著名な作家が母校の卒業生であり、多くの同窓生の精神的支柱となっていることを、在学生を含めた若い世代にも伝えたく、ささやかながら特集を組みました。咲耶会の協賛事業である「司馬遼太郎記念学術講演会」により、脈々と受け継がれてきた外語精神を次代に継承できればと思います。創立 100 周年を機に母校の歴史に思いをいたし、創設期から連続とつづく外国人教師の系譜があることに気付きました。今回は、世界歴史の大きな転換期にドラマチックな人生を生き、母校の教育に少なからぬ影響を遺したロシア語のネフスキー先生と英語のキッド先生について、研究者と教え子の視点から、お二方にご寄稿をお願いしました。会報『咲耶』は、これからも、母校の過去、現在、未来をつないでまいります。皆様の温かいご支援が頼りです。末永くよろしく願い申し上げます。(編集委員会)



会報 No.34 (2023)

発行 令和 5 年 9 月

発行者 咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)
〒562-8678 箕面市船場東3-5-10
大阪大学 箕面キャンパス 外国語研究講義棟 1F

☎ 072(728)2327 ✉ sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
🏠 sakuyakai.net 🌐 www.facebook.com/SAKUYAKAI
郵便払込口座番号: 00910-7-21536 加入者名: 咲耶会



咲耶会 メールアドレス QR コード



咲耶会 facebook QR コード